

香港におけるコンテンツ市場の実態

2007 年 3 月

日本貿易振興機構（ジェトロ）

免責

ジェトロは、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、派生的、特別の、付随的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、それが契約、不法行為、無過失責任、あるいはその他の原因に基づき生じたか否かにかかわらず、一切の責任を負いません。これは、たとえジェトロがかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。

本報告書に関する問い合わせ先：

**日本貿易振興機構（ジェトロ）
輸出促進課**

〒105-8466 東京都港区赤坂 1-12-32

TEL：03-3582-5313

FAX：03-5572-7044

©JETRO 2007

本報告書の無断転載を禁ずる

アンケート返送先 FAX 03-5572-7044

ジェトロ輸出促進課 宛

(平成19年3月現在)

● ジェトロ海外マーケティング調査報告書のご利用アンケート ●
～「香港におけるコンテンツ市場の実態」～

本レポートをご利用頂き、誠にありがとうございました。

ジェトロの今後のサービス向上に向けて、皆様のご意見を伺いたく存じますので、アンケートにご記入下さいますようお願い申し上げます。

- 質問1： 本報告書は、香港における日本コンテンツ（映画、テレビ番組、アニメ、マンガ、音楽、ゲーム）市場状況をご紹介し、日本企業の皆様が海外に販売する際の参考資料になることを目的に作成いたしました。が、どの程度満足されましたか？（○をひとつ）

4：満足

3：まあ満足

2：やや不満

1：不満

- 質問2： 上記のように判断された理由、またその他本報告書に関するご感想をご記入下さい。

- 質問3： その他、ジェトロへの今後のご希望等がございましたら、ご記入願います。

ふりがな お名前				会社・団体名			
部署				役職			
住所							
TEL				FAX			
e-mail				http://			

- ★今後、お客様のご関心のあると思われるジェトロおよび関係機関の各種事業、各種アンケート調査等のご案内の可否につき、該当欄に✓をご記入願います

＜ 送付可 ☐ 送付不可 ☐ ＞

- ★ ご記入頂いたお客様の情報は適切に管理し、ジェトロのサービス向上のために利用します。
お客様の個人情報保護管理者： 輸出促進課長 TEL:03-3582-5313

- ★ ご協力ありがとうございました。

日本貿易振興機構(ジェトロ)輸出促進課 〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル 6 階

Eメール： EXA@jetro.go.jp

ウェブ： <http://www.jetro.go.jp/jetro/activities/export/>

目次

はじめに	4
市場データ	5
1. 香港のコンテンツ産業・市場現況	6
(1) 映画	6
(2) テレビ番組	8
(3) マンガ、アニメ	12
(4) 音楽	14
(5) ゲーム	18
2. 政府の振興政策	20
(1) IT振興からコンテンツ振興へ	20
(2) 国際規模の展覧会の開催と参加	21
(3) CEPA（香港中国経済緊密化協定）	22
(4) 中国での香港のテレビ放送の受信について	24
3. 参考：香港のネット普及状況	26
4. 参考：関連法規	28
5. 業界関係者インタビュー（映画）	30
業界関係者インタビュー（テレビ番組）	32
業界関係者インタビュー（アニメ）	36
業界関係者インタビュー（マンガ）	38
業界関係者インタビュー（音楽）	39
業界関係者インタビュー（ゲーム）	41
6. 参考文献等	43
7. 分野別バイヤーリスト	44

別添参考資料：香港における日本製作品（コンテンツ）リスト

- ・香港で「分級」化された日本映画（2005年）
- ・香港ケーブルテレビが2005年に購入した日本のテレビ番組（一部）
- ・日本マンガ出版目録（2006年8月現在、中文、以下4社より提供あり）
玉皇朝出版集团有限公司、天下出版有限公司、正文社、東立出版集团有限公司
- ・2006年4月20日～06年9月8日に香港でリリースされたJポップCD（50曲）
- ・プレイステーション用ソフトの動向（2006年7月）

はじめに

「世界の中で日本の大衆文化の影響を最も強く受けているのは、台湾」と言われていますが、映画上映本数や放送時間に占める日本製テレビ番組の割合などのデータだけを見ると、香港が上回っているのが現状です。

コンテンツの展開に関して香港市場は、①アーティストやクリエイター等人材が豊富であり、かつ華人を中心にアジア一円で人気が高い、②中国が隣接する点を含め、ビジネスセンターとしての諸制度が整い、アジアの本社機能を置く企業が少なくない、という特徴があります。映像分野ではフジテレビ、音楽分野ではエイベックス、ソニーBMG、ゲーム分野ではバンダイ・ナムコ、コナミ等、代表的な日本の企業はアジア本社またはアジア展開の統括的な機能を香港に持たせているようです。

本レポートは、香港市場に特化したコンテンツ市場状況を「映画」「テレビ番組」「マンガ・アニメ」「音楽」「ゲーム」の5分野に分け、市場データをご紹介します。また、関連する法規事項、業界関係者インタビュー及び現地における日本製作品のリストを纏めています。

本報告書が、日本製コンテンツを香港市場に展開するビジネスに僅かでも貢献できるのであれば誠に幸いです。ご助言やご協力をいただいたコンテンツ関連企業の皆様に心からお礼申し上げます。

日本貿易振興機構（ジェトロ）

市場データ

コンテンツ関連データの整理 (台湾と香港)

		台湾	香港
映画	企業数 (制作・配給) 制作会社 配給会社 上映 (映画館)	・2010社 (下記5種の会社 制作後工程 20社) (5年未) ・556社 (5年未) ・1270社 (5年未) ・166社661カ所 (5年未)	・1094社、関連雇用者数6337人 (5年未) ・外国映画 277社、安楽、泛亜、香港映画 瑞寶、嘉樂等 ・52社95カ所 (5年未)
	企業数 (制作) 制作会社 配給会社 上映映画数	・592社 (5年未) ・185社 (5年未) ・220社 (5年未) ・164社 (5年未)	
	上映審査通過件数	・407本 (台湾製ドラマ24本、台湾製短編記録映画16本、香港4本、中国大陸4本、外国309本)	
	上映映画数	・336本、うち台湾映画5本 (5年)	・上映のため分類された映画本数多外国映画が940本、製作された香港映画は5本 [うち2本はデジタルビデオ] (5年)
	興行収入	・台北市のみ(8200万米ドル、(国産30万米ドル)) (5年)	・1億100万米ドル (国産800万米ドル、海外8300万米ドル) (5年)
テレビ	合計	・ラジオとテレビ172社 (2006年6月末現在、行政審判局) ・台視、中視、華視、民視、及び公共放送の5局	・「本地免費電視」。2社4チャンネル。TVB 電視廣播有限公司＝無線、ATV (亞洲電視＝衛星)。それぞれ中国語と英語の2チャンネルを持つ (明珠台と翡翠台、國際台と本港台)
	地上波		・「地收費電視」。3社207チャンネル。①香港有線電視 (80チャンネル以上、広東語、北京語、英語)、②電訊盈科互動影院有限公司＝now寬頻電視 (40チャンネル以上、広東語、北京語、英語)、③銀河衛視廣播有限公司 (30チャンネル以上、広東語、北京語、英語)
	ケーブル	・63局	・全24万世帯として浸透率54.5%の122万口座 ・非本地電視。13社35チャンネル (2005.8)。浸透率32.7%
	衛星	・衛星取得5社 (うち15社が外国企業)。営業中5社 (外国社)	
アニメ		・05年アニメ関連企業の売上総額が推定約4000万米ドル。日本関連が推定で7割の2800万米ドル程度 ・年間80〜100タイトルがビデオ発売され、うち約8割が日本の作品と推定。うち年間20〜30タイトル (うち8割が日本の作品) を発する群英社が約4割の市場シェアをもつ	・05年アニメ関連企業の売上総額が推定3000万米ドル。日本関連が推定で約6割の2300万米ドル程度
	(商品化)	-	・05年アニメ関連企業の売上総額が100万〜700万米ドル程度。年率5〜6%のペースで拡大。日本関連のシェアは約半分
漫画	企業数 出版社 書出版点数 漫画出版	・雑誌社707社、出版社8829社 (06年6月現在、行政審判局) ・図書出版点数8万8492 (ISBN取得 04年、行政審判局) ・漫画前行は東立、尖端、長崎、売上高上位3社で、そのシェアは6〜7割にのぼると推定される	・出版社228社 (04年未)。雇用者数6万831人 (同) ・雑誌52誌 (2つのオンライン新聞社)。05年9月未) ・合計6社。大手は3社 (王冠朝集有限公司＝Jade Dynasty Group Limited、天下出版有限公司＝Jonesky Limited、文林傳言＝カルチャーコム)、中規模出版社が3社 (正文社香港、東立台湾網、青文社 [台湾網])
	(雑誌)	・漫画2雑誌が中国大陸の発行数を平均1.8年。全51誌の平均は0.9年。漫画2雑誌の合計発行部数42.3万部。全雑誌51誌の合計平均は56.9万部 ・漫画2雑誌の平均価格30.3元。全雑誌51誌の平均は100.9元	・漫画は2社2誌が日本の翻訳版雑誌を発行。東立が『新少年』(講談社の『週刊少年ガン』を翻訳・編集)、文林傳言が『EX-am』(集英社の『週刊少年ジャンプ』を翻訳・編集)
	(単行本)	・漫画前行の出版点数は、推計で年間1000点。このうち印刷部品は毎月250作品程度。上記3社で8割前後のシェアを持つと推計	・王冠朝、天下の大手2社と漫画雑誌専門の3社の合計5社が地元漫画を載せる雑誌を発行 ・漫画前行の出版点数は、推計で年間2000点以下。上記6社が主な漫画出版物の6〜7割は日本の漫画
音楽	企業数 レコード会社	・大手・SonyBMG、EMI、Universal、Wame、及びAvexと現地のロックレコード	・SonyBMG、EMI、Universal、Warnerがいわゆる「ビッグ4」、及びAvex
	(Jポップ) オンライン	・Jポップのシェアはレコード売上額の8%程度で約300万米ドル (5年、IFPIの資料から推計) ・ネット人口は05年369万人、世帯普及率42%。ブロードバンド接続は370万世帯、うち86%が約320万人がDSL (04年) ・オンラインでの音楽プロバイダーは『KuroFM網』『Ezpeer』『Imusic』『KBox』 (5年未)。その後、休止サイト有り	・Jポップはレコード売上額の2.2%の約178万米ドル (04年、IFPIの資料から推計) ・ネット人口は05年369万人、ブロードバンド接続は370万世帯 (普及率66.6%) [06.5]。ISP 186社 (06.7) ・『SoundBuzz.com』『6Media』『EOLAsia』『NWT NWTmusic.com』『Netvigator mov』『i-Cable imusic』 (06年未)
ゲーム	ハード	・推定でPS2が100万台、DS7〜8万台、Xbox360が3万台	・推定でPS2が17万台 (ゲーム人口の9割)
	企業数 開発会社 貿易・流通	・主要各社の提携会社	・Xbox向け1社が実績有り ・主要各社の子会社

資料) 詳細は本文を参照

1. 香港のコンテンツ産業・市場現況

(1) 映画

【現況】

2004 年末現在、1,094 の映画関連会社があり、6,337 人が就業している。また 2005 年末現在、商業映画上映の映画館は 52 館あり、スクリーン数は 195 を数える。なお、興行収入に映画関連の収入を加えた映画娯楽産業の総収入は 6 億 8,100 万米ドルである（2003 年、数字は INVEST HK のホームページより引用）。

2004 年に上映のため「分級（分類）」（Categorize）された映画は、1,295 作品あり、うち外国作品は 1048 作品、そのうち日本映画は 135 作品（図 1）を数えた。

2005 年の興行収入は 9 億 4,700 万香港ドルで、うち香港制作作品は 3 億 800 万香港ドル（図 2）。同年の香港映画の製作本数は 55 本（うち 2 作はデジタルビデオ）。興行収入の上位 3 作品は『イニシャル D』（3,786 万香港ドル）、『ハリーポッターと炎のゴブレット』（3,498 万香港ドル）、『超人特攻隊（Mr. インクレディブル）』（3,379 万香港ドル）であった（香港影業協会）。なお、

図 1 香港：外国映画と日本映画の「分級（分類）」数 ※（ ）内はシェア

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	小計
日本映画	135 (21.0)	131 (16.7)	93 (9.8)	189 (19.4)	135 (12.9)	143 (15.2)	826 (15.5)
その他の外国映画	507 (79.0)	652 (83.3)	853 (90.2)	783 (80.6)	913 (87.1)	797 (84.8)	4,505 (84.5)
外国映画総計	642 (100.0)	783 (100.0)	946 (100.0)	972 (100.0)	1,048 (100.0)	940 (100.0)	5,331 (100.0)

資料）香港政府テレビ娯楽免許事務所

図 2 香港の映画興行収入と映画産業の動向

(100 万香港ドル)

	2001	2002	2003	2004	2005
ボックスオフィス	1,034	908	899	953	947
・香港映画	na	na	433	403	308
・外国映画	na	na	467	550	639
法人数(単位)	1,130	1,221	1,196	1,094	1,139
就業者数(人)	6,101	6,413	6,248	6,337	6,093
付加価値額	1,133	1,373	1,424	1,272	na
業務収益指数 (2000 年 = 100)	115	105	107	111	117

注 1) 興行収入は再上映作品からの収入を含む。注 2) 外国映画は中国と台湾作品を含む。注 3) 法人数、就業者数は各年四半期推計値の平均数。注 4) 業務収益指数は 96 年から集計開始

資料) “Annual Survey of Box Office Receipts of Cinemas and Theatres”、『サービス産業統計摘要』(2005、2006 年版)

2004年に製作された香港映画は63本、興業収入は3億8,300万香港ドル（2003年は同77本、興行収入は3億6,600万香港ドル）。香港映画の凋落は著しい。2004年の興行成績上位3本は「ディ・アフター・トゥモロー」「ハリーポッターとアズカバンの囚人」「スパイダーマン2」という外国映画であり、4位ようやく香港映画の「鬼馬狂想曲」。以下、「新警察故事」、「魔幻厨房」と続いた。

興行収入は90年代半ばから減少基調にある。1994年は13億8,400万香港ドルを記録したが、1999年に9億1,600万香港ドルまで減少。その後、盛り返すかに見えたが、2002年以降は9億香港ドル台を推移しており、なかでも香港映画の低調傾向が顕著である（同図2）。

香港は世界有数の映画輸出国でもある。東南アジア、台湾等の華人圏をはじめ、韓国等へも輸出する。ビデオ、レーザーディスク、CD等の貿易は2005年に17億8,700万香港ドル。内訳は輸入が8億1,500万香港ドル、地場輸出が2億8,200万香港ドル、再輸出が6億9,000万香港ドルである（図3）。もともと香港は地場輸出（香港映画の輸出）が盛んで、2002年までは地場輸出が再輸出を凌いでいたが、2003年に再輸出額が地場輸出を上回り、その後、地場輸出は減少の一途をたどっている。

図3 ビデオディスク製品、その他の記録済磁気テープの貿易
(100万香港ドル)

	2000	2001	2002	2003	2004	2005
輸入	347	551	577	831	738	815
(伸び率)	-15.3	58.8	4.7	44.0	-11.2	10.4
輸出	1250	1441	1030	1052	1074	972
(伸び率)	45	15.3	-28.5	2.1	2.1	-9.5
・地場輸出	890	782	582	437	332	282
(伸び率)	64.3	-12.1	-25.6	-24.9	-24.0	-15.1
・再輸出	360	659	448	614	743	690
(伸び率)	12.3	83.1	-32.0	37.1	21.0	-7.1

資料)香港政府統計局

「映画会社」は、①制作（Production） - 配給（Distribution） - 上映（Exhibition）の3部門もしくは2部門を持つ大手、②制作、配給もしくは上映に特化した多数の独立系会社の2種類に大別可能である（図4）。

特に製作に関して、子会社等を通じて小規模な能力を有する会社もあるため厳密な分類は難しいが、映画関係者の話を総合すれば、3部門を全て持つのはエコー（Edko=安楽。今年『日本沈没』等を配給）1社である。2部門を持つのは、コロンビア（Columbia Tristar）、アプローズ（Applause Pictures）、パンアジア（Panasia）等。上映（映画館）に特化しているのは、ゴールデンハーベスト、インターコンチネンタル（Intercontinental）、UAシネマ等である。

また、マルチメディア時代を迎え、国境を越えた合従連衡が進展。2005 年 11 月にはインターコンチネンタル・グループが角川グループと包括提携した。

図 4 主な映画関連会社

制作会社	<i>Edko Films, Columbia Tristar, Applause Pictures, Panasia Films</i> , China Star Entertainment, Emperor Multimedia, Golden Harvest, Han Entertainment, Mandarin Films, Media Asia, Salon Films, Shaw Brothers, Universe Entertainment
配給会社	<i>Edko Films, Columbia Tristar, Applause Pictures, Panasia Films</i> , Celestial Pictures, Fortissimo, Gala Film Distribution, Intercontinental Film Distributor, Mei Ah Entertainment, Miramax Asia, Twentieth Century Fox, Warner Bros
上映施設運営会社	<i>Edko Films</i> , Golden Harvest, Intercontinental Film Distributor, UA Cinema, AMC, Multiplex Cinema, Broadway,

【日本製コンテンツの普及・浸透】

外国映画の割り当て規制は存在しない。「すべての年齢層で視聴可能」「保護者の指導が必要」「成人向け」など、配給会社において自律的な「分級」制（「第一級」（全世代で可）、「第二A級」（児童禁止）、「第二B級」（児童と青少年禁止）、「第三級」（18才以上）の4種類）を採用する。一般公開前に配給会社が政府のテレビ娯楽免許局（Tela=Television Entertainment and Licensing Authority）に自己申告する。

コンテンツの売買は、セラーとバイヤー（配給会社）が直接または代理人を通じて交渉する。日本映画のビデオ化権販売では、日本でのビデオ発売から半年後と定められる場合が一般的だが、これに対しては「並行輸入品に市場を席巻される」とバイヤーからの声もある。

(2) テレビ番組

【現況】

テレビ放送局は政府免許に従い 4 つに分類できる。地上波局、域内有料放送（ケーブル放送を含む）、域外放送（衛星放送）、その他である。

免許発給数で見ると、2005 年 9 月末現在、地上波 2 局（4 チャンネル）、ケーブル放送を含む域内有料放送が 4 局（要免許放送が 3 局、免許不要放送が 1 局。合計約 230 チャンネル）、衛星放送（域外放送）13 局（135 チャンネル）を数える。加えてラジオが 2 局ある。また、テレビとラジオを運営する公共放送 1 局（RTHK=Radio Television Hong Kong）が存在する。

香港は、アップリンク（電波の衛星への打ち上げ）の場所がどこであろうと、香港域内で視聴可能な放送を妨害しない“open sky”政策を採用しており、技術的には SMATV (Satellite Master Antenna Television) 方式により、200 以上のチャンネルを視聴できる。現在、マンション居住者を中心に 76 万余りの世帯が衛星放送を受信可能だが、平均して約 10 チャンネルを受信している。ニュースコープ系列のチャンネル、具体的には「スター」や「フェニックス」が比較的良く視聴されている。ラジオチャンネルは 13 局が聴取可能である。

世帯（世帯総数は約230万）への浸透率では、2つの地上波局（TVB=Television Broadcasts LimitedとATV=Asia Television Limited）が99%、2つの域内有料放送（九龍倉=ワーフ系の香港ケーブルテレビ=Hong Kong Cable Television Limited。ブロードバンド技術を使うPCCW系の“now”）が67%で、これら4つのテレビ放送が市場をほぼ占有する（06年8月末）。地上波の2局はそれぞれ英語、広東語チャンネルを有し、合計4チャンネルが放送されている。いずれも『放送条例』に従い、ニュース、ドキュメンタリー、時事問題、芸術・文化、子供向け（10代を対象とする教育番組を含む）・若者向け・高齢者向け番組、および公共放送局であるRTHK（Radio Television Hong Kong）制作番組を放送するなどの、いわゆる「ジャンル規制」（報道や教育番組への放送時間割り当て義務）が存在する。「ジャンル規制」を除けば、放送コンテンツに関する規制はない。

域内有料放送については、2000年に上述の香港ケーブルテレビの独占体制に終止符が打たれた。固定電話会社を母体とする、上述のPCCW Media Limited（“now”）と有料の地上波局であるTVB PAY VISION Ltd. が新たに免許を取得し、サービスを開始した。

域内有料放送の最も安価な視聴パッケージの契約料金は1ヵ月70香港ドル。1チャンネル当たり1ヵ月5香港ドルの計算になる。このうち“now”は、ブロードバンド技術を利用しており、データ、音声、映像の三つを提供可能なことから、それらの「パッケージ販売」に力を注いでいる。

政府は2004年7月、地上波のデジタル化を進める旨を発表。2つのテレビ局は2007年までに放送を開始し、08年までに世帯の75%をカバーすることを求められている。これにより、DVD画質の映画専門番組、VOD（Video On Demand）型の双方向サービスなどが導入される可能性がある。一方、コンテンツ需要が増えることから、今日でも被害額が年2億米ドル（Cable and Satellite Broadcasting Association of Asiaの推計）と推定される海賊放送のさらなる悪化を懸念する有料放送関係者もいる。

【日本製コンテンツの普及・浸透】

地上波全体（広東語と英語で合計4チャンネル）に占める日本の番組のシェアは推定4%程度、ケーブルのそれは2%程度。両者を合わせた全放送時間に占める日本の番組のシェアは3~4%程度と推計される（1年365日24時間放送。再放送を含む単純計算）。これは同様の試算で推定3%程度のシェアを占める台湾のテレビを、番組購入時間数の点でも上回るとみられる。ただし、テレビ番組や映画の話し言葉は、ほぼすべてが中国人社会の共通語である中国語（広東語）に吹き替え、または翻訳されている。

地上波2局の広東語放送について、日本の番組は7.4%を占める（2004年実績）、英語放送は10.6%を占める「その他」に分類されるが、1%以下と見られる（図5）。広東語、英語とも365日24時間放送と仮定すれば、地上波全体に占める日本の番組のシェアは4%程度と推測できる。

図5 地上波2局の番組ソース

＜広東語チャンネル＞		＜英語チャンネル＞	
ソース	シェア	ソース	シェア
香港制作	15.5	香港制作	11.0
香港電台	3.3	香港電台	1.0
政府	1.7	政府	1.7
日本	7.4	教育テレビ	7.9
中国	5.7	米国	33.6
米国	1.9	中国	15.5
自社製作	56.3	英国	9.3
その他	8.3	オーストラリア	2.6
合計	100.0	自社製作	7.0
		その他	10.6
		合計	100.0

注)2004年実績

資料)香港政府放送事務管理局(Broadcasting Authority)

広東省放送の番組ソースを詳しく見ると、TVB（翡翠）とATV（本港台）のいずれも過半は自社製作である（61.1%と51.4%）、英語チャンネルは、海外からの購入がTVB（明珠台＝パール・チャンネル）で92.3%、ATV（国際台＝インターナショナル・チャンネル）では93.7%にのぼる（香港政府放送事務管理局＝Broadcasting Authorityの資料による）。

日本の番組を購入・放送する、もう一つの有力テレビ局である香港ケーブルテレビは1993年に香港で初めてケーブルテレビ事業者の免許を取得し、同年10月末から放送開始。1999年11月に香港証券取引所に上場した。06年7月末現在、全世帯の37%の77万世帯が契約する。ISPやコンテンツなどを含むネット事業は04年末に29万世帯が契約し、15%のシェアを持つ。

ケーブルテレビは現在、グループ会社の制作番組を含め、15チャンネルで自社制作して

いるが、その他は主に、i-CABLE News Limited、i-CABLE Sports Limited、i-CABLE Entertainment Limitedの3社（いずれも、グループのi-CABLE Media Limited傘下）が外部から番組を購入している。それぞれニュース、スポーツ、エンタテインメント・映画で、これらに加え「パス・スルーチャンネル」（外部からの購入番組をそのまま放送するという意味）と呼ばれるNHK、BBC、CNNなどの海外から購入する常時放送番組もある。

このうち、日本製番組の最大の需要家は「エンタテインメント」部門で、「エンタテインメント」部門は5つのチャンネルに分かれている。05年はドラマ、アニメを中心に合計500時間以上を日本から購入。2006年は上期だけでアニメを中心に500時間以上を購入。

「エンタテインメント」チャンネル（「娛樂台」チャンネル12）は、ドラマ、クイズ、バラエティなどを放送するが、05年は日本から約200時間の番組を購入。購入した国の中では日本が最も多く、海外からの購入番組に占める割合は約50%に達した。自社制作番組もあわせた同チャンネル全体の放送時間では約23%を占める。子供向けチャンネル（「兒童台」チャンネル11）も、アニメを中心に日本から250時間の番組を購入（約200時間がアニメ、約50時間がライブ・アクションか教育番組）。米国からはワーナー系、ヨーロッパからは教育番組を主に購入しているが、海外からの購入番組に占める日本のシェアは約55%にのぼる。子供向けチャンネル全体では約30%を占める。さらに、芸能界のニュース等を流すCEN（「有線娛樂新聞台」チャンネル13）では、日本製は海外からの購入番組の10~20%を占める。「ホライズンチャンネル」（「新知台」衛星放送チャンネル50/51）は中国向けの北京語放送局で、バラエティが中心だが、権利処理の問題から購入可能な番組がほとんどないため日本は同5%程度に留まっている。ニュース（「有線財經資訊台」チャンネル8）はドキュメンタリーを中心に50時間以下の日本製番組を放送している。同10~15%を占めている。

「エンタテインメント」チャンネルのほかにも同局では映画チャンネルやスポーツチャンネル、さらにニュース素材などを日本から購入しており、これらをすべて合わせれば、同社は日本製テレビ番組の香港最大のバイヤーと推測される。また、有料テレビ特有の事情として、契約者はNHK World（契約者全員が視聴可能）、NHK Premium（基本パッケージと別料金で視聴契約）、JET TV（同）、さらに台湾のAsia Plusや香港の衛星放送局のPhoenixなども視聴することができ、これらを合わせれば、日本のテレビ番組のプロバイダーとして圧倒的規模を誇る。これらとは別に、同ケーブルテレビには日本のアダルトビデオ専門チャンネル（別料金）もある。

テレビ放送全体に関して、香港では、所謂「ジャンル規制」といわれる、一定の時間にニュース、時事、文化番組、そして子供向け番組の放送を義務付け、その放送のうち一定

時間を地元制作番組とする旨を規定された規制があるが、これを除けば、日本製コンテンツの輸入や展示（出版・放送・上映・商品化等）に関しての規制はない。

香港企業とのコンテンツの売買は、セラーとバイヤーが直接または代理人を通じて交渉している。日本製テレビ番組の販売では、編集（放送時間調整のための編集）が禁止され、ビデオ化権は番組放送権と別に売買されるのが一般的。だが、ドラマは月曜日から金曜日までの週 5 日連続して放送されるのが一般的な香港では、「12 話程度の日本のドラマは 2 週間強で終わってしまうので、番組編成が難しい」との声も聞かれる。さらに、放送期間が短い上にビデオ化権が別ならば、番組宣伝が難しく、スポンサーも得にくいとの声もある。

(3) マンガ、アニメ

香港の印刷メディアは 2005 年 9 月現在、新聞 49 紙（中国語 23、英語 13、中英文併用 8、日本語 5）を数える。中国語紙のうち、17 紙が主に香港域内と国際ニュースを掲載。4 紙が主に経済ニュースを扱う。その他は競馬新聞に分類される。同期に雑誌は 752 種（オンライン新聞・雑誌等を含む）を数える。

アメリカの大手出版社が香港で新聞、書籍等の印刷を行うほか、中国語出版物のセンタ一的地位を確保している。2004 年に新聞と書籍の貿易に関して、香港は米国の 4 番目の、中国にとっては最大の、そして台湾にとっては 2 番目の輸入相手先である。

【現況：漫画】

香港で日本の漫画を発行する主な出版社は、大手 3 社、第 2 線の 3 社の合計 6 社。玉皇朝出版集团有限公司 (Jade Dynasty Group Limited)、天下出版有限公司 (Jonesky Limited)、文化傳信（カルチャーコム）が上位 3 社で、中規模出版社として児童書等が中心の正文社（香港）、東立（台湾系）、青文社（台湾系）の 3 社が続く。

この 6 社が出す漫画出版物の 6～7 割は日本の漫画である。年間発行点数で約 2000 点弱を数える単行本だけなら、日本原作のシェアはほぼ 100%に達する。単行本出版の内訳は、3 大出版社が月に平均 25～30 点、年間約 1000 点以上。これに第 2 線の出版社 3 社分、および年間合計約 100 点程度の香港ローカル漫画の分を含め、合計 2000 点弱という計算である。

単行本の価格は 1 冊 28～33 香港ドルだが、日本産の紙を利用するなど「高品質漫画」を売りとする文化傳信は、新書判を 30 香港ドル、B6 判を 35 ドルで販売する。

単行本の出版点数は、推計で台湾が香港の 2 倍余にのぼり、年間 4000 点を数える。台湾

には出版社にとって有力な顧客である 2000 店とされる貸本屋が存在するため、タイトルの豊富さが重要で、貸本屋購入分だけでも 2000 部は堅いからである。自ら売上規模も台湾が香港を上回る。

他方、単行本以外の香港の漫画週刊誌は2社2誌が日本の翻訳雑誌である。東立が講談社の『週間少年マガジン』を翻訳・編集した『新少年』を、文化傳信が集英社の『週間少年ジャンプ』を元にした『EX-am』を出版する。日本のジャンプは20ストーリーだが、7ストーリー程度に絞り、200ページ程度に編集する。いずれも実売部数は数千部と言われる。

また、玉皇朝や天下の大手 2 社と漫画雑誌専門の 3 社の合計 5 社が地元漫画を載せる週刊誌を発行する。台湾と異なり、香港は武侠や功夫（カンフー）の伝統があり、ローカル漫画が発展する素地があるが、そうした週間漫画誌は 1 作品で 1 冊すべて（全 32 ページ）を構成し、その続きを次号に載せる「長編大作」が主流。徹底した分業体制で機械的に創作され（現在は中国に制作拠点を移行している出版社が多い）、読者として比較的教育水準の低い労働者を対象とする。いわば「読み捨て」の編集であり、ローカル漫画の単行本が少ないのも、こうした事情による。ローカル漫画の著作権が出版社に帰属するのも、「作家不在」という同様の理由に基づく。

05 年にアニメ関連企業の売上総額は推定 3,900 万米ドル。中期的に 1.3 億米ドル程度まで膨らむと予想される。日本関連は現在、約 6 割を占める 2300 万米ドル程度と推定される（香港專利授權特許經營協會会長も務める香港の版權管理会社・多萊寶授權（國際）有限公司（bubble mon）の李偉生社長の推計）。

映画館での上映目的で 05 年に政府当局により「分級」化された日本のアニメは 28 作品（作品リストを参照）。また、テレビでは、香港ケーブルテレビが 05 年に購入したアニメ 10 作品は次の通り。

- ・「テニスの王子様」（Prince of Tennis）
- ・「わがまま☆フェアリー ミルモでポン！」（Mirmo Zibang II）
- ・「ウルトラマンティガ THE FINAL ODYSSEY」（Ultraman Tiga The Final Odyssey）
- ・「そーなんだ！」（So Nanda）
- ・「パンダゼット」（Panda Z）
- ・「ミッドナイトホラースクール」（Midnight Horror School）
- ・「頭文字（イニシャル）D 第4ステージ」（Initial D 4th Stage）
- ・「頭文字（イニシャル）D 第3ステージ」（Initial D Movie 3rd Stage）
- ・「ブリーチ」（Bleach）

- ・「天上天下」 (Tenjo Tenge)

(付：ライセンシング・ビジネスについて)

香港域内で生まれ育ったブランドは少ないが、90年代前半からライセンシング・ビジネスが徐々に発展。日本、米国のキャラクター等の国際管理センターの役割を担っている。Warner Bros、Mattel、National Basketball Association等の事務所があり、その多くはアジア本社機能を有している。また、外国の多くのライセンサーは香港の代理店に独占契約を与え、アジアでのビジネスを開拓している。業界関係者は100以下のライセンサーとライセンス代理店があると推測する。これらの多くは「Licensing Executive Society of China」の「Hong Kong chapter」の一員である。

ビジネスの内容では、輸出が全体の7割を占めると見られるが、ロイヤルティとライセンシング料金の輸出額で見ると、03年は前年比48.5%増の3億4000万米ドル。サービス輸出総額の0.7%を占めた (*Report on Hong Kong Trade in Services Statistics for 2003*, Census & Statistics Department から)。

他方、残余の3割は香港域内需要である。消費者は流行に敏感であり、食品・飲料、玩具、本、贈答品、文具、コンピュータ周辺機器、ファーストフードや銀行の販促製品用として売買されている。05年秋のディズニーランドの開幕はライセンスセンターの地位をさらに高めるものと期待されている。

(4) 音楽

【現況】

IFPI (国際レコード産業連盟) の資料によれば、2004年の香港のレコード売上枚数は680万枚。うちシングルCDが1万枚、アルバムCDが610万枚、音楽DVDが60万枚である。小売金額は前年比約15%減の8,100万米ドルである。人口1人当たり0.96枚、金額で11米ドルの売上計算である。1人当たり2枚の日本の約半分だが、アジアでは所得 (1人当たりGDP) がほぼ同じシンガポールとほぼ同じで、トップを争う。

図6 売上総額

(100万米ドル)

	1997	98	99	2000	01	02	03	04
中国	280	103	94	80	84	94	198	212
台湾	428	320	307	244	170	90	140	143
香港	175	118	104	108	97	144	94	81
合計	38,581	38,239	38,671	36,964	33,374	30,981	32,012	33,614

資料)IFPI(国際レコード産業連盟)

ただ、歴史的に見ると、90年代後半から売上額の低下に歯止めがかからない。例えば、97年以降、ほぼマイナスが続き、2002年に持ち直したものの、その後2004年までマイナスが続いている（図6）。04年の売上額は97年の半分以上である。売上数量も同様である（図7）。不振は台湾においてより深刻である。アジアでは中国が03年以降プラスに転じているが、これは著作権保護が強化されるに従い、「正規版」が統計値を押し上げた要因が大きいと見られる。

図7 売上総数量

(100万枚)

	1997	98	99	2000	01	02	03	04
中国	165	78	72	61	53	61	116	124
台湾	48	40	36	28	19	10	16	16
香港	16	11	11	11	10	17	12	7
合計	4,168	3,768	3,800	3,706	3,303	3,014	2,894	2,756

注)10万の単位はすべて四捨五入した。資料)IFPI(国際レコード産業連盟)

IFPIの資料では、金額ベースで04年に邦楽が35%、洋楽が54%、クラシックが11%を占めた（図8、図9。なおクラシックは全体から邦楽と洋楽を差し引いた残余）。2000年と比べると、邦楽は13ポイント低下、洋楽は8ポイント上昇した。アジアの華人社会において香港のポップ音楽は中心的な地位を占めるが、香港域内においては邦楽の人気は意外と低いように見える。しかし、これは近年、中国等において違法な音楽ダウンロードサイトが増えたためで、「違法ダウンロード」分を考慮すれば、実態は「全く逆で、洋楽が35%、邦楽が54%というのが現実に近い」と見る音楽関係者もいる。

図8 国別<邦楽>レパートリー占有率

国名	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年
日本	77%	76%	74%	72%	72%
中国	55%	51%	47%	47%	45%
台湾	66%	50%	49%	50%	52%
香港	48%	47%	48%	40%	35%
韓国	63%	63%	62%	60%	61%
シンガポール	21%	27%	27%	28%	23%
マレーシア	16%	16%	21%	22%	22%
タイ	77%	73%	70%	61%	61%
インドネシア	53%	53%	58%	56%	58%
フィリピン	42%	42%	22%	29%	44%
インド	90%	90%	90%	90%	90%
パキスタン	100%	100%	95%	91%	65%

注)金額ベース。資料)IFPI(国際レコード産業連盟)

図9 国別<洋楽>レパートリー占有率

国名	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年
日本	23%	24%	26%	28%	28%
中国	45%	49%	53%	53%	55%
台湾	28%	43%	45%	43%	40%
香港	46%	45%	44%	49%	54%
韓国	26%	27%	27%	27%	25%
シンガポール	73%	69%	69%	67%	72%
マレーシア	81%	82%	76%	74%	75%
タイ	23%	27%	30%	39%	39%
インドネシア	47%	47%	42%	44%	42%
フィリピン	57%	57%	76%	70%	55%
インド	10%	10%	10%	10%	10%
パキスタン	—	—	5%	9%	35%

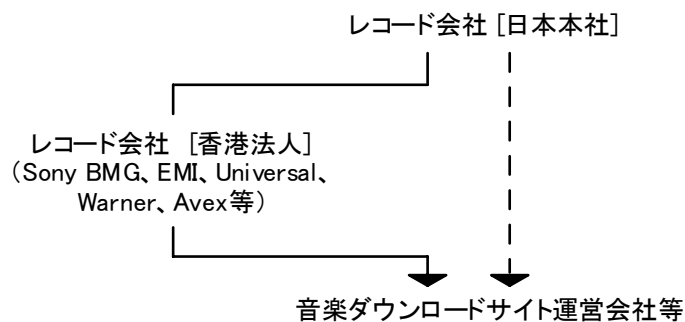
注1) 金額ベース。注2)「洋楽」は「地域音楽」を含む
資料) IFPI(国際レコード産業連盟)

香港のレコード業界は、Sony BMG、EMI、Universal、Warner がいわゆる「ビッグ 4」を構成し、邦楽（香港の音楽）、洋楽を含めシェアが大きい。この他、比較的規模の大きな地元独立系のレーベルとして EEG がある。

【日本製コンテンツの普及・浸透】

IFPI の資料によれば、2004 年にレコード売上額の 54%を占めた洋楽のうち、「日本+韓国」の音楽は 2.7%（2004 年）。その内訳について、業界関係者の話を総合すると、「韓国が 0.5%、日本は 2.2%程度（推定）」とみられる。2.2%は金額にして 178 万米ドル。シェア、金額とも台湾の約 4 分の 1 である（ただし、比較のため利用した香港のデータは 2004 年、台湾のそれは 2005 年のもの）。

図10 Jポップの諸権利の流れ



他方、主要な音楽ダウンロードサイトは、「SoundBuzz.com」(SOUNDBUZZ Digital Music Downloads。 <http://www.soundbuzz.com/> シンガポールのMP3等メーカーのCreativeが主要株主)、「EOLAsia」(<http://www.eolasia.com/>)、「o8 Media」(<http://www.o8media.com/>)、NWT (NWTmusic.com。 <http://www.nwtmusic.com/> 香港の通信会社)、Netvigator (moov、 <http://moov.now.com.hk/> 香港の通信会社)、i-Cable (imusic。 <http://imusic.i-cable.com> 香港のケーブルテレビ運営、ISP、コンテンツプロバイダー)の6社がある。

「SoundBuzz.com」はインドのコンテンツが活発だが、インドコミュニティが小さい香港は2007年に閉鎖との情報がある。またNWTも閉鎖が噂される。一方、「Netvigator」はISPの付加価値との位置付けであり、会員メンバー限定され、現状はダウンロード不可のサービス。ただし、ダウンロードを可能にするとも言われる。同じくISPである「i-Cable」もメンバーに対する付加価値との位置付けだが、こちらはPCへのダウンロードが可能。いずれにせよ、独立系の音楽ダウンロードサイトは、「EOLAsia.com」と「o8 Media」のみであり、Jポップを提供するサイトに限れば、「EOLAsia.com」だけである。

図11 オンラインでの娯楽享受の推移

調査期間(年・月)	2001 4～6	2002 5～7	2003 5～8	2004 6～8	2005 5～8
オンライン・デジタル・エンターテインメント	72.99	97.29	119.57	118.5	131.24
・ゲーム	28.1	33.4	37.3	34.1	37.3
・音楽、ラジオ観賞	55.53	70.04	81.15	81.91	93.63
	21.4	24.0	25.3	23.6	26.6
	35.21	58.35	70.23	69.52	75.49
	13.6	20.0	21.9	20.0	21.5

注)複数回答

資料) Thematic Household Survey Report No. 23: Information Technology Usage and Penetration, December 2005, Social Surveys Section, Census and Statistics Department, Hong Kong Government.

需要面を見れば、02年以降、オンラインで「音楽・ラジオ鑑賞」する割合は21%前後を推移する(図11)。ゲームが増加傾向にあるのとは対照的である。今後の新技術、法的制度導入の進展度合いにもよるが、香港ではオンラインでの音楽鑑賞は頭打ち傾向とも読み取れる。

(5) ゲーム

【現状】

香港のゲーム市場は日本製ゲームが市場を席巻している。

香港政府の調査では、コンソール型ゲーム機がある世帯は約 68 万戸（全体の約 30％）を数え、そのうちデスクトップ型が 46 万戸、携帯型が 43 万戸である（図 12、図 13）。「過去 12 ヶ月にゲームをした年令 10 歳以上の数」も人口の約 3 割である（図 14）。ところで、2 種類以上持っている消費者もいるだろうが、香港のゲーム人口の 9 割は PSⅡを所有するとも言われる。これらの情報を総合し単純計算すれば、PSⅡが 40 万台程度、MS の Xbox が数万台とも推計できる。携帯型も PSP が少なくないと見られる。xBox360 はネットでのインタラクティブ機能があり、旧世代機より人気上昇したという。

図12 コンソール型ゲーム機がある世帯
(万戸、%)

	世帯数	割合
有る	67.7	29.6
無い	160.8	70.4
合計	228.5	100.0

図13 コンソール型ゲーム機の種類別の所有世帯数
(万戸、%)

	世帯数	割合
デスクトップ型	46.4	68.5
携帯型	42.8	63.2
合計	67.7	100.0

注) 複数回答

資料) Thematic Household Survey Report No. 23:
Information Technology Usage and Penetration,
December 2005, Social Surveys Section, Census
and Statistics Department, Hong Kong Government.

ゲームソフトについては、明確な市場規模を示すデータがないが、『水貨』と呼ばれる平行輸入品が 20％程度（10 本に 2 本程度）を占めると推定されている。その大部分が正規ルートに載らない不人気ソフトだが、逆に見れば、コアなユーザーが 2 割を占める計算になる。香港政府の調査では、ゲーム人口の年分布は「15～24 才」（33％）が最多で、以下、「25～34 才」（23％）、「10～14 才」と続く（図 15）。これはネット人口と比べ年令層が若干高い。香港において電子ゲームは、様々な周辺情報を集めつつ、日本語ソフトを操る必要があるゆえに特定世代にファンが集中する「高尚な娯楽」であることを示す、との解釈も可能であろう。

PSⅡ用ソフトは、500 種類程度が流通すると見られている。新作なら 1 週間で 200～300 本売れ、“ヒット作”であればこの後しばらくは 1 ヶ月で PSⅡなら 30 本、PSP なら 10 本、

任天堂なら 10～20 本程度のペースで売れ続けるという。

【日本製コンテンツの普及・浸透】

音楽と同じく、ゲームソフトも日本のメーカーが香港現地法人を設立し、輸入・卸業者として小売店に直接に販売する。コナミ、カプコン、ソニー、バンダイなどは事務所を持ち、また任天堂は“萬信（MANI）”が代理とする。他に日系では SNK Playmore がある。

図14 過去12カ月間に電子ゲームをした年令10才以上の数
(万人、%)

	人数	割合
した	191.2	30.8
しない	428.9	69.2
合計	620.0	100.0

資料) Thematic Household Survey Report No. 23: Information Technology Usage and Penetration, December 2005, Social Surveys Section, Census and Statistics Department, Hong Kong Government.

図15 過去12カ月間に電子ゲームをした年令10才以上の人々の年令階層別分布
(万人、%)

年令階層	総計								
	シェア	割合		男性	シェア	割合	女性	シェア	割合
10～14	34.7	18.2	82.1	19.0	17.1	87.3	15.7	19.7	76.6
15～24	62.9	32.9	71.1	37.0	33.2	82.1	25.9	32.5	59.6
25～34	43.1	22.5	43.1	26.0	23.4	56.1	17.0	21.4	31.9
35～44	31.4	16.4	24.3	17.8	15.9	30.4	13.6	17.1	19.3
45～54	14.7	7.7	12.6	9.2	8.2	16.0	5.5	6.9	9.4
55～64	3.3	1.7	5.3	1.8	1.6	5.6	1.5	1.9	4.9
65～	1.1	0.6	1.4	0.7	0.6	1.8	0.5	0.6	1.1
総計	191.2	100.0	30.8	111.5	100.0	37.2	79.7	100.0	24.9

注) 各年令階層の人々が過去12カ月間に電子ゲームをした割合

資料) Thematic Household Survey Report No. 23: Information Technology Usage and Penetration, December 2005, Social Surveys Section, Census and Statistics Department, Hong Kong Government.

2. 政府の振興政策

遡ると、香港においては経済サービス化が著しく進んだ90年代後半から、IT産業の発展を背景として、コンテンツ産業が注目され、公的機関が民間企業・団体と協力し、その振興に力を注いでいる。ところが記述の通り、香港映画の興行収入や対外輸出の大幅減に見られるように、その後、むしろ低迷傾向が鮮明化した。こうして21世紀に入ると、政府が前面に出つつ、映画産業への資金援助や中国との自由貿易協定の締結などの形でコンテンツ産業を支援する動きが出始めた。

(1) IT 振興からコンテンツ振興へ

香港の行政首長である دونالد・ツアン（曾蔭権）行政長官は05年の施政方針演説において、香港を知識主導経済へと転換する必要性を強調した。これを受け、政府内務局（Home Affairs Bureau）が香港の創造力の評価、およびコンテンツ産業の持続的発展のための指標として「香港クリエイティビティー・インデックス」の枠組み設定のための調査研究を実施。コンテンツ産業（「文化・クリエイティブ産業」）は、香港政府の定義では11の産業から構成される。

その定義に基づけば、香港のコンテンツ産業は2001年にGDPの4%を占め、2002年に労働力の5.3%相当の17万人を雇用した。同産業の実働部隊は法定機関の芸術発展局（Arts Development Council=ADC）だが、同局では05年1月に新たな事業規定が発効した。すなわち、「香港をアジアと南中国の芸術文化のハブへと発展させる。つまり、躍動的、多元的、出色の文化芸術の発展を促す。一般市民、政府、財界を含め社会全体の活発な関与を促進する。このようにして文化芸術の質と市民の関心と理解能力を高め、香港のコンテンツ産業の発展に貢献する」ということである。

香港には伝統的に、租税・金融政策、規制等を通じた特定産業の保護・振興策は存在しない。ましてコンテンツという言論表現問題に関わる「情報産業」への直接的な介入は注意深く避けられている。政府の役割は、①言論表現の自由を含め、自由なビジネス・生活環境の保持、②教育の充実、③各種公的機関（法定機関）を通じた情報分析・情報提供程度にとどまる。

しかし、90年代後半頃から特定産業に対し、主にサプライチェーンの川上に当たる研究・開発、人材養成等に用いられる資金援助を行うようになった。コンテンツ産業もその一つだが、その振興策は、①輸入作品に席捲されがちな一部の産業（映画、ゲーム等）に対して香港産作品の振興を図る、②そのアクターが香港資本であれ、外国資本であれ、香港を「コンテンツ生産と流通のアジアのハブ」とする、という二つに大別することができる。

前者については、当初、IT産業振興策として90年代末に打ち出された「デジタル21」があり、後者については、各種の催事（映画・テレビ番組、漫画・アニメ・ゲーム、音楽、ライセンシング等）への間接的支援や中国とのFTA（自由貿易協定）である「CEPA」（香港中国経済緊密化協定）等を挙げることができる。その実働部隊としては、政府が出資するIT関連企業の事務棟等から成る香港サイバーポート（Cyberport）や政府機関のHKTDC（香港貿易発展局）、HKPC（香港生産力発展局）がある。HKPC（香港生産力発展局）はデジタルコンテンツの振興に注力し、とくに技術面の支援を提供する。

（2）国際規模の展覧会の開催と参加

①「香港フィルマート」(Filmart=Film and Television Market)

香港を映画・テレビ番組・映像ビジネスのアジアの制作・流通センターとすることを目標としてHKTDC（Hong Kong Development Council=香港貿易発展局）の主催で1997年に開始。AC Nielsenの調査では、多くの関係者はアジアで最も重要な映画・テレビ番組関連イベントと位置付けている。

2005年の『香港フィルマート』は、映画製作の資金調達に関するフォーラム「香港/アジア フィルム・ファイナンス・フォーラム（HAF）」、「香港国際映画祭（HKIFF）」、「香港映画賞（HKFA）授賞式」、「デジタル・エンタテインメント優秀賞（HKDEEK）授賞式」、「IFPI香港トップ・セールス音楽賞授賞式」、「デジタル・エンタテインメント・リーダーシップ・フォーラム（DELP）」など8の催事とともに、アジア初の複合型エンタテインメント・イベント『エンタテインメント・エキスポ香港』（Entertainment Expo Hong Kong）の一環として開催された。イベント間の相乗効果が出たこともあり、05年は出展者、来場者とも過去最多を記録。23ヵ国・地域から352社（香港企業89社。海外は日本企業22社を含め263社）が出展し、40ヵ国・地域から前年比23.8%増の2832人（香港1418人、海外1414人）のバイヤーが来場。中国からは30社余りが出展、350人以上が来場した。日本からの来場者数は前年比144%増の142人だった。

2006年は共催イベントがさらに増加し、『香港ミュージック・フェア（Hong Kong Music Fair）』が香港貿易発展局とIFPI（国際レコード産業連盟）香港の共催で初めて催された。コンテンツ配信のデジタル化、ネットワーク化を踏まえ、05年に初めて「デジタルエンタテインメント・パビリオン」が設置されたが、レコード会社や音楽出版社のほか、携帯電話関連のメーカーやサービス・プロバイダー、インターネット音楽サービス・プロバイダー、ポータブル・ミュージック・プレイヤー関連のメーカーや販売会社、デジタル・エンタテインメント制作会社など、約60社が出展。06年はアニメーション、デジタルポストプロダクション、オンラインゲームや教育用ソフトなど、50社以上のアジアの関連企業

も出展した。

②「香港漫画アニメ祭」

「香港動漫節」(Tung Tak Enterprise Limited＝同徳企業有限公司が主催)が開催されている(2006年に「香港漫画節」[漫画祭]から改称)。05年の入場者数は総人口の実に7%弱の46万人にのぼった。06年は同人誌コーナーも開設された。

③「ライセンシングショー」

香港専利授權展。香港貿易發展局が主催。02年から開催。展示出展社数はわずか15だったが、05年にはアニメ関連企業を含め58の出展企業/団体が250以上のブランド・権利を展示。1万3000人以上が訪れた。06年に出品社数は100余りとなった。

④「アジアゲームショー」(Game Show and Digital Entertainment Expo Asia)

香港のZenith Events Corporation Ltdが主催。当初は“Digital Entertainment Expo Asia”(DEEAsia)として始まり、05年12月に第5回目が開催された。第2回目から“Asia Game Show”(AGS)が併催され、05年12月は第4回目に当たる。世界の主要なゲーム機メーカー、ゲームソフトメーカーが出展するが、両者を合わせて05年は30万人を集めた。

(3) CEPA(香港中国経済緊密化協定)

WTO加盟後、中国の監督当局は収益共有を条件に外国映画の配給を年間20本まで認め、香港映画も外国映画として扱われた。なお、中国との共同制作作品は中国映画と見なされ、中国での上映が容易になるため、香港の映画会社は共同制作を積極的に行ってきた。しかし、それでも共同制作映画には、俳優やスタッフの比率やストーリーなど、数多くの規制がある。しかし、CEPA(香港中国経済緊密化協定)により、中国本土の監督当局の検査を受け、承認を受ければ、輸入枠とは関係なく配給可能になったほか、共同制作に関する条件も大幅に緩和された。これを受け、大手のゴールデンハーベストが広東省に完全子会社を設立した。ただし、実際にどの程度の収益を挙げられるかは、中国本土の監督当局の検査や承認、および収益共有メカニズムにかかっている。

ともあれ、第三段階まで進んだCEPAのうち、「音響・映像」(AV)に関する取り決めの進捗状況は以下の通りである。

<CEPA I>

香港特別行政区政府と中国中央政府との間で2003年6月29日に締結されたCEPAが2004年1月1日に施行され、香港製品、サービスと専門職従事者の本土市場へのアクセスが拡大された(CEPA I)。

映像・音響製品の代理販売サービスについて、①香港のサービス提供者が中国本土にお

いて合弁により、映像・音響製品の代理販売サービスを提供するのを許可（中国本土で映像音響製品の代理店販売サービスに従事する際、香港のサービス提供者は、中国の適用法、規制および審査制度の規定を遵守する）。②香港のサービス提供者に対し、70%を上限として合弁会社の過半数所有を許可する旨が規定された。

<CEPA II>

続いて香港と中国本土政府は 2004 年 8 月 27 日、CEPA の枠組みに基づく自由化第 2 段階（CEPA II）を発表し、本土市場へのアクセスをさらに拡大することで合意し、2005 年 1 月 1 日に実施に移された。この結果、従来のゼロ関税適用対象品目 374 品目に新たに 713 品目が追加され、ほぼすべての香港製品をゼロ関税で中国本土に輸出できるようになった。

また、CEPA II ではサービス 8 業種で本土市場が開放され、CEPA I で自由化された 18 業種についても規制緩和の枠が広がった。中国本土の映画・テレビ市場への参入規制も緩和された。以下に例を挙げる。

- ・ 国家広播電影電視総局（SARFT）の承認を得れば、中国本土の試験地域に独資（100%出資）の映画配給会社を設立し、中国本土および中国本土・香港合作映画を配給できる。
- ・ 共同制作作品は、SARFT の承認を得れば、中国本土外で現像、処理できる。また、中国本土の監督当局の審査を受ければ、香港と中国本土の共同制作番組を中国本土制作番組として放送および配給できる。
- ・ さらに、CEPA I では香港企業には映画館の最大 75%の所有しか許可しなかったが、CEPA II では香港企業は映画館を建設または改装し、100%所有できるようになった。香港企業は、上演会場、画廊、芸術展示センターを設立し、100%所有できる。
- ・ 芸能代理業を合弁で設立しうる。
- ・ CATV(ケーブルテレビ)を運営する香港企業は、本土の管轄当局の承認を得た後、広東省の試験地区でCATV関連の専門技術サービスを提供することができる。

以上の業種は WTO 合意枠組みの対象外のため、中国の WTO に対する公約以上の自由化を香港に与えた。

<CEPA III>

2006 年 1 月 1 日発効ではさらに以下が取り決められた。（有線テレビの技術サービス、テレビドラマの共同制作の細則については、末尾の「香港中国経済緊密化協定の措置：“有線テレビ技術サービス”及び“テレビドラマ共同制作”に関する具体的な取り決め及びその実施細則」を参照）

- ・ 独資での映画館設立が可能。香港法人は映画上映のため、1 つ以上の場所に 1 つ以上の映画館を建設、または改修可能に。

- ・香港と中国との共同制作作品の広東語版は、当局の承認を得た後に広東省で上映可能。
- ・香港法人かつ著作権の過半を所有する制作会社制作の映画の輸入は、当局の承認を得たうえで中国の輸入制限枠から除外。

(4) 中国での香港のテレビ放送の受信について

香港の地上波局のテレビ番組は、中国でのテレビ受像機の普及に伴い、スピルオーバーにより、隣接する広東省の深センはもちろん、珠江三角洲の香港寄りの一帯で視聴できた。香港のニュースやドラマが高い人気を得、視聴率は地元テレビ局を押さえ、圧倒的な高さを誇った。90年代にはスターテレビが始まり、繰り返し規制が強化されたものの、南部を中心におおむね視聴は可能だった。

しかし、テレビ局にとって、その視聴率を広告などの形で収入に結びつけることは可能でも、法的にはグレーである。むしろ、香港のテレビ視聴をビジネスに変えたのは広東省である。「規制」の名目で香港のテレビ放送を再送信するケーブルテレビに出資する広東省政府は、香港の広告を自省のそれに差し替え、莫大な収入を得た。

ところが、中央政府は21世紀に入り、相次いで香港のテレビ放送の広東省等での視聴を公認した。フェニックス中国語チャンネル (Phoenix Chinese Channel)、フェニックス映画チャンネル (Phoenix Movies Channel)、及びChina Entertainment Television (CETV) が01年に広東省での放送権 (landing rights) を取得。続いて02年に、スターテレビ系の星空衛視 (Xing Kong Wei Shi) channel が許可を取得。地上波局もATVが02年に、TVBは04年に同省での放送権を取得した。これにより、香港のテレビは合法的に広告活動を展開できるようになった。これを中国政府による香港のテレビ番組コンテンツに対する支援策と捉えることもできよう。

＜CEPA III＞前後のAV及び映像などの視聴覚サービス関連製品アクセス範囲

＜CEPA III以前＞のアクセス範囲	＜CEPA III＞に基づくアクセス範囲
●映画館 ・外国企業は、出資率が50%を超えない合弁形式で映画館の建設または改修を行うことができる。 →＜CEPA IとII＞では、香港企業が50%以上の出資をして映画館の建設や改造を行う合弁会社を設立できる。 ・外国企業は、上海、北京、広州、成都、西安、武漢、南京の7つのパイロット都市では、映画合弁事業の最大75%を保有できる。	●映画館 ・香港企業は、映画上映事業の経営を目的に、複数箇所複数映画館の建設または改修に従事する100%所有子会社を設立することができる。
●共同製作 ・外国と本土スタッフの比率が50対50。 ・ストーリーは中国が舞台でなければならない。 →＜CEPA IとII＞では、香港企業の共同制作について、映画の舞台は中国でなくともよい。ストーリーは中国に関するものでなくてはならない。また主役級の俳優の少なくとも3分の1は中国本土の俳優でなくてはならない。	●共同製作 ・香港と中国本土の共同製作映画の広東語版を広東省で配給および上映できる。 (⇒撤廃)
●外国映画 ・外国映画の輸入は収益共有を条件に年20本に制限。 ・香港映画は外国映画と見なされる。	●外国映画 ・香港制作の中国語映画は輸入枠の適用を受けずに自由に輸入できる。 →ただし、香港の製作会社は映画の著作権を50%以上（CEPA IIの75%以上から引き下げ）所有していなければならない。* ・中国電影集团公司の電影輸出入会社が独占輸入した広東語版の香港制作映画を広東省で配給および上映できる。 【*当該映画の主要スタッフの50%以上が香港居住者でなければならない。主要スタッフには、監督、脚本家、主演男優、主演女優、助演男優、助演女優、制作者、カメラマン、エディター、芸術監督、衣装デザイナー、アクション振付師、オリジナルスコア作曲者が含まれる】
●TV番組 ・外国企業の共同製作連続TVドラマは30話が上限。	●TV番組 ・香港と中国本土共同製作の連続TVドラマの最大話数は、中国本土制作TVドラマと同じとする。
●AV及び映像など視聴覚関連製品 ・（映画を除く）音及び映像関連製品は合弁事業体が配給する。	●AV及び映像など視聴覚関連製品 ・合弁事業体を設立する際には香港の会社の出資率が50%を超えてもよい（但し70%を超えてはならない）。

3. 参考：香港のネット普及状況

PCの利用目的

(万、%)

	総計		男性		女性	
	(回答者数)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
インターネット(デジタル・エンターテイメント含む)	350.8	96.2	177.6	96.5	173.1	96.0
文書処理(ワープロ機能)	238.8	65.5	118.5	64.4	120.2	66.6
オフラインでのデジタル・エンターテイメント	171.4	47.0	92.3	50.1	79.1	43.9
・音楽	117.9	32.4	60.9	33.1	57.1	31.6
・PC用ゲーム	108.8	29.8	64.7	35.2	44.1	24.4
・VCD, DVD観賞	64.3	17.6	35.3	19.2	29.0	16.1
グラフィック、イメージ処理	90.2	24.7	47.5	25.8	42.8	23.7
インターネット(情報収集、連絡)	70.9	19.5	35.5	19.3	35.4	19.6

注) 複数回答

資料) Thematic Household Survey Report No. 23: Information Technology Usage and Penetration, December 2005, Social Surveys Section, Census and Statistics Department, Hong Kong

PC普及率と普及世帯数

調査期間(年・月)	1998	2000	2001	2002	2003	2004	2005
	1～3	1～3	4～6	5～7	5～8	6～8	5～8
PCがある世帯(%)	34.5	49.7	60.6	62.1	67.5	71.1	70.1
・世帯数(万世帯)	67.6	105.1	125.8	132.2	147.9	158.2	160.1
インターネットにつながれたPCがある世帯(%)	11.8	36.4	48.7	52.5	60.0	64.9	64.6
・世帯数(万世帯)	23.1	77.0	101.1	111.8	131.5	144.4	147.7

資料) Thematic Household Survey Report No. 23: Information Technology Usage and Penetration, December 2005, Social Surveys Section, Census and Statistics Department, Hong Kong Government.

非移動系のウェブ閲覧機器で過去12カ月間にネットを利用した年齢10才以上の人々の利用目的
(万、%)

	総計		男性		女性	
	(回答者数)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
他者との連絡	292.5	83.2	147.8	83.0	144.7	83.4
ウェブの閲覧(政府のウェブを除く)	251.1	71.4	127.9	71.8	123.2	71.0
情報探索・ダウンロード(政府情報を除く)	190.2	54.1	96.2	54.0	94.0	54.2
雑誌・新聞の閲読	177.8	50.6	90.8	51.0	87.0	50.1
政府ウェブサイトの探索・ダウンロード	131.4	37.4	66.7	37.4	64.8	37.3
オンライン・デジタル・エンターテイメント	131.2	37.3	74.2	41.6	57.1	32.9
・ゲーム	93.6	26.6	58.2	32.7	35.4	20.4
・音楽、ラジオ観賞	75.5	21.5	38.2	21.4	37.3	21.5
・ビデオ観賞	21.9	6.2	12.3	6.9	9.6	5.5
電子ビジネスサービスの利用	87.1	24.8	45.4	25.5	41.7	24.0
ソフトウェアやファイルのダウンロード	78.7	22.4	47.7	26.8	31.0	17.9
オンラインのワープロ利用(ICQと電子メール除く)	76.4	21.7	38.9	21.9	37.4	21.6
政府ウェブ上のサービス利用(支払い、申請等)	56.5	16.1	29.3	16.5	27.2	15.7
グラフィック、イメージ処理	25.3	7.2	13.8	7.7	11.5	6.6
自習	22.0	6.3	11.4	6.4	10.6	6.1
データ処理・分析・データベース管理	18.6	5.3	10.5	5.9	8.1	4.7
カスタムメイドのコンピュータ・システムの利用(会計、人事管理等)	11.4	3.2	6.1	3.4	5.3	3.0
回答者総計	351.6	-	178.1	-	173.5	-

注)複数回答

資料)Thematic Household Survey Report No. 23:Information Technology Usage and Penetration, December 2005, Social Surveys Section, Census and Statistics Department, Hong

4. 参考：関連法規

香港中国経済緊密化協定の措置：

“有線テレビ技術サービス”及び“テレビドラマ共同制作”に関する具体的な取り決め及びその実施細則を以下に記す。

前言

2004年10月27日に署名された“措置”補充協議の規定に基づき、2005年1月1日から、中国内地では“措置”付則4の“サービス、貿易開放領域に関する具体的な取り決め”に基づき、映像・音響サービス等の領域で香港のサービス、及びサービス提供者に対し、市場参入条件がさらに緩和された。テレビにおける具体的取り決めについては、“有線テレビ技術サービス”と“テレビドラマの共同制作”の2つの項目が盛り込まれている。

“有線テレビ技術サービス”

2、 現在、中国内地の有線テレビ・ネットワークすべての設計と工事は必ず中国内地の免許を持つ事業者により請け負われている。“措置”補充協議の規定に基づけば、中国内地では今後、香港で有線テレビのネットワークを経営する企業が、中国内地の主管部門の承認を得た後、広東省を試験地区として、有線テレビ・ネットワークの専門技術サービスを提供することが許される。

3、 上述の“有線テレビ技術サービス”の具体的な取り決めの細則は以下の通り。

- 1) 香港特別行政区電信管理局が発行した有線テレビのネットワークサービスに関する電信免許及び、香港特別行政区工業貿易局が発行した香港サービス提供者証明書を持つ会社が、広東省の有線テレビのネットワーク事業者と有線テレビ技術サービスに関する協力について自身で商談する。
- 2) 広東側の有線テレビのネットワーク事業者は、双方の協力計画を広東省広播電影電視局へ申請・提出する。
- 3) 広東省広播電影電視局の承認を経て、香港側企業は広東側の協力機構に対し、有線テレビ・ネットワークの専門技術サービスを提供する。

香港特別行政区電信管理局の担当者：

高級電信工程師（諮問及び支援）の鄭志強。

“テレビドラマの共同撮影”

- 4、 “措置” 補充協議の規定に基づき、中国と香港が共同制作するテレビドラマは、中国側主管部門の審査を経た後、国産テレビドラマと見なされ、放送と発行が審査・承認される。
- 5、 上述の“テレビドラマ共同制作”の具体的取り決めの細則は以下の通り。
 - 1) 香港企業は、国家広播電影電視総局令第 41 条“中外共同制作テレビドラマ管理規定”に基づき、テレビドラマの共同制作活動を進める。香港企業は香港特別行政区工業貿易局に対して香港サービス提供者証明書を申請する必要はない。
 - 2) 香港側と協力する中国側機関は、国家広播電影電視総局に対し、共同制作したテレビドラマを国産テレビドラマとして放送・発行する旨の申請を行う。

香港特別行政区政府の映画テレビ娯楽事管理处の担当者：

首席娯楽事務管理主任 林慧儀氏

香港特別行政区
映画テレビ娯楽事務管理局
2006 年 1 月

5. 業界関係者インタビュー（映画）

インタビュー先：Golden Scene 社

Winnie Tsang（曾麗芬氏）Managing Director

——日本映画を買う理由は？

「私はゴールデンハーベスト時代から『木村家の人々』（1988 年。英語タイトル『Yen Family』）を買い付けるなど日本映画に注目してきた。会社設立・独立後も日本映画を比較的数量多く購入しているのは、香港の若者の間で人気が高いからだ。最近の日本の映画は、純愛映画や『クイール』など動物モノを中心に若者向き映画で存在感を示している。もうひとつの理由は、香港映画の不振だ。香港の制作者は中国で娯楽大作を作ること傾注しており、若者が楽しめる映画がほとんどなくなった」

——日本映画を今後とも買い続ける？

「第一に、配給会社は買い続けなければ生き残れない。第二に、日本映画はそれなりにヒットする。ファッション、漫画、キャラクター商品など香港社会に深く浸透しているのが理由だと思う。この若者のライフスタイルへの全体的な影響力の有無が、韓国映画と違うところだ」

——日本側への要望などは？

「ロイヤルティの一部としてのMG（Minimum Guarantee）が高すぎる。日本映画は莫大な興行収入を保障するわけではないので、我々のような日本映画の強力な支持者に対して理解を示し、善処を望みたい。韓国映画は安い、支持層がなお薄い。第二は DVD 化して販売できるまでの期間を短縮して欲しい。今は日本での発売から半年後という制限が付くが、その半年の間に平行輸入品が市場を席巻してしまう。せめて日本と同時発売にして欲しい。また、映画のEPK（＝宣伝用の電子資料）が遅いか、全くない場合もある。到着を待てないので、宣伝を全くしないで上映する映画もあるが、これでは客の入りは期待できない。肖像権のクリア問題から、ウェブ上に一部の出演者の顔を掲載できないのも問題だ」

（以下、参考）

映画会社の大小もしくは影響力は、制作（Production） - 配給（Distribution） - 上映（Exhibition）のサプライチェーンをどれだけ手中に収めているかで決まる。香港でこの3つを全て持っているのはエコー（Edko＝安楽。今年は『日本沈没』等を配給）のみ。上映（映画館）を所有しているのはゴールデンハーベスト、インターコンチネンタル・グループ、UA の 3 社。残余は制作のみ、配給のみ、上映のみ、また配給プラス上映と一部機能に特化している。マルチメディア時代を迎え、香港映画界も国境を越えた合従連衡が進展。2005 年 11 月にはインターコンチネンタル・グループが角川グループと包括提携した。

ゴールデン・シーン(Golden Scene)は映画配給会社として1998年、ゴールデンハーベスト出身で、GS社の現社長(Managing Director)の曾麗芬(Winnie Tsang)女史らが設立。近年は日本映画の配給で存在感を示している。

参考：2006～2007年、日本映画配給作品一覧

明日の記憶 (Memories of Tomorrow)
花よりもなほ (Hana)
初恋 (First Love)
東京フレンズ (Tokyo Friends)
うどん (Udon)
バックダンサーズ (Back Dancers)
ただ、君を愛してる (Heavenly Forest)
どろろ (Dororo)

以上

業界関係者インタビュー（テレビ番組）

①インタビュー先：鳳凰電視（Phoenix TV）

王凱茵（Ms Holly Wong）氏 上級番組担当オフィサー（Senior Programme Officer）

——日本のテレビ番組の販売先企業である香港企業はどのような種類の番組を、どの程度購入しているのか？

「日本のテレビ番組はテレビ局から直接購入している。購入する番組の大半はドラマとドキュメンタリーの二種類。近年、ドラマは年間8タイトル、ドキュメンタリーは同10タイトル程度購入している」

——日本のテレビ番組の購入条件について

「値段が高い。日本側は我々の放送範囲がきわめて広いと捉え、高くても当然と考えているようだ。この点について交渉の余地は少ない。」

——日本のテレビ番組の人気は？

「香港では日本の番組は非常に人気がある。しかし韓国ドラマも人気を高めている。香港だけでなく中国も我々の重要な市場だが、中国では韓国ドラマの方が人気がある。というのも、我々はドラマを月～金連続して放送しているが、週5回放送するには、日本のドラマは余りに短すぎるからだ。」

——日本のテレビ番組製作側への注文

「ドラマは、ラブストーリーだけでなく、例えば父と息子、母と娘など、家族関係に関する成熟した内容のものを望む。『おしん』『阿信の子供たち』のような創造力溢れる長編を、また制作して欲しい。良質な番組が日本で増えれば、我々はもっと購入することができる。」

（以下、参考）

香港を拠点とする広域衛星放送局である鳳凰電視（Phoenix TV）は、1996年3月31日に放送を開始。フェニックス衛星放送中文チャンネル、フェニックス衛星放送資訊チャンネル、フェニックス衛星放送欧州チャンネル、フェニックス衛星放送米州チャンネル、フェニックス衛星放送映画（電影）チャンネルを有し、アジア太平洋地域の50ヵ国以上、欧州、北米の40ヵ国以上で視聴が可能である。

スター（旧スターテレビ）の全株式を保有するニューズコープ（NewsCorp）が子会社の「星空衛視」（Star）を通じ株式の38%を保有している。「星空衛視」はニューズコープがアジア展開のため香港に設立した持株会社。傘下にフェニックス衛星放送中文台（3チャンネル）、星空衛視、Channel [V] 音楽、中国語有料テレビ4チャンネル（衛視體育チャンネル、E P S N體育チャンネル、衛視國際電影チャンネル、国家地理チャンネル）の合計9チャンネルを有す。2000年に上海代表事務所を開設。鳳凰電視は2000年6月30日に香港

証券取引所に株式を上場した。

2001 年 10 月 19 日、中国当局は鳳凰電視に対し、広東省珠江デルタ地域での放送を正式に認可した。同 29 日、中国中央電視台と鳳凰衛視は、中国語テレビ番組の世界展開を目指し共同で新会社を設立することで合意した。なお同 22 日には、世界最大の複合メディア企業 AOL タイムワーナーが、中国政府から広東省の一部地域でケーブルによる配信の正式認可を得たと発表。さらに 12 月には、スターも、広東省での放送が許可された。2002 年 3 月からケーブル網を使った新しい 24 時間総合娯楽チャンネル「星空衛視 (Starry Sky Satellite Television)」の配信を開始している。

②インタビュー先：i-CABLE Entertainment Limited（香港ケーブルテレビ）

Cassidy Lau（劉佩貞氏）Manager, Programme Acquisitions

——2006年の日本のテレビ番組購入現状は？

「今年の日本からの購入ペースは早く、上半期だけで500時間の番組を購入した。子供向けチャンネルが350時間（うちアニメが200時間）で、その他はほとんどがドラマとドキュメンタリー、そして芸能娯楽ニュース番組。しかし、バラエティ（ゲームショー）は、諸権利のクリアができず、実に『料理の鉄人』の1本のみ。これに対し、韓国のゲームショーは購入しやすい。」

——日本の番組の購入は減少傾向にあるのか？

「日本がまだ多いが、日本、韓国、台湾の3つが競合もしくはチャンネルの中で融合している状態。番組自体の人気、人気アーティストの出演の有無など、コンテンツ次第でその3者の比率が大きく変わる。」

——韓国の番組をどう見ているか？

「ドラマを中心に韓国のコンテンツに勢いがある理由として5点を指摘したい。①政府支援、②諸権利のクリアランス問題、③プロモーション体制（快く香港にやってくるなど販促への強い意欲）、④品質（映画にせよドラマにせよ、様々なバリエーションの作品製作が可能。笑いにしても、バラエティ豊か）、⑤韓国アーティストの人気（韓国芸能人全体の人気が高まっている。ドラマでは今や音楽が重要な要素だが、Kポップ人気も上がっており、相乗効果が出ている）。」

——日本側への要望などはあるか？

「テレビ番組は国際商品であるとの自覚をもっと持って欲しい。諸権利のクリアランスが余りに難しい。恐らく、日本は国内市場が強すぎて、海外市場について考えをめぐらす必要がないのだと思う。また、テレビ局と芸能事務所との関係がもっと対等な方が良い。推測するに、日本では芸能事務所が強すぎるのか、テレビ局が番組を海外に売っても、PRのため出演者が現地に出向くなどということはほとんどない。出演者へのインタビューのため我々がテレビクルーを送りたいと申し出てもまず断られる。それならばと、電子メール、時にはファックスを使って質問を送るが、日本からはほとんど返事がない。これに対し、韓国の芸能事務所は、こちらが呼び掛けると快く香港にやって来てくれる。非常に協力的だ。日本はストーリーだけを取れば優れていると思うが、諸権利クリアランスや宣伝体制を含めた総合力では韓国勢に劣るのではないか。」

(以下、参考)

グループ内でテレビとネットの双方を展開するため、近年はコンテンツ事業に注力している。06年1月、i-CABLE Media Limited傘下に、i-CABLE News Limited、i-CABLE Sports

Limited、i-CABLE Entertainment Limitedの3つのコンテンツ事業体を置く会社構造へ改組した。

現在、エンタテインメント・映画、スポーツ、ニュースの合計93チャンネル（基本パッケージに含まれない、別料金番組を含む）のうち、グループ会社の制作番組を含め、15チャンネル、年間約1万時間を自作するが、その他は主に上述の3社が外部から購入している。

以上

業界関係者インタビュー（アニメ）

インタビュー先：多莱寶授權（國際）有限公司（bubble mon）総経理
李偉生（Wildon Lee）氏 香港專利授權特許經營協會会長

——日本とのビジネスの現状は？

「現在は 50 以上のキャラクターのライセンスを扱い、うち日本からは 12 のライセンスを持つ。アニメ化は、日韓が共同して行い台湾のテレビや携帯電話のゲーム等で人気を博した炫風太郎（Ki-fighter Taerang）、ウルトラマンなどを含む。創業当初は、日本の比率は高かったが、それは合計 30 のうち 15 は日本というように全体数が少なかったからで、日本が大きく減少したわけではない。」

——アニメは？

「日本、韓国、中国産など 20 作品以上を扱う。販売先は香港のテレビ局など。長い関係があるので、サンプルテープを見せれば、価格もおおむね折り合い、契約に至る。」

——日本とビジネスはどのように行っているのか？

「日本からのライセンス購入は、日本で開かれる貿易フェアなどを訪問して直接に買い入れる場合が多い。なぜなら、中規模企業が見付けやすいからだ。比較的無名企業でも、優れたアニメやキャラクターは少なくない。香港や中国では、それらをより大きなビジネスに変えることができる。」

——香港市場の特徴は？

「香港でライセンシング会社は現在でも 10 社以下。我々は 97 年の創設だが、きわめて古参の部類に属する。取扱いが増えてきたのは 02～03 年頃で、香港は比較的若いマーケットと言える。」

「最大の特徴は、他のアジア市場へ展開するゲートウェイになっていることだ。とくに中国は外国企業が直接にやるのは簡単ではなく、香港を積極的に利用すべきだ。WTO（世界貿易機関）加盟時の公約で、2008 年に外資 100% のライセンス・ビジネスが認められるが、香港は CEPA（経済貿易緊密化協定）により、2005 年に外資側の 100% 出資が認められた。2008 年の北京五輪、2010 年の上海エキスポをにらめば、今が大きなチャンスと言える。ただ現実問題として、中国で失敗する香港企業は少なくない。おおむね 1～2 年でダメになる。例えば日本のある有名キャラクターは、ある香港の会社が中国で販売しようとしたが行き詰まり、別の会社が変わった。香港の会社の中には香港から中国へのライセンスの再販だけをする会社もある。」

「日本からのライセンス獲得をめぐり、伝統的に香港と台湾が相互の市場を巡り激しく競っているが、最近では中国市場をめぐってもしばしば競合する。」

——日本への要望は？

「大別すれば、二つある。一つは価格。日本のメディアや調査関係者、業界の訪問団等を受け入れたのは今回で 5 件目。後で問い合わせを受けることもあるが、まず価格面で折り合わない。現在持つ 12 の日本のライセンスの大部分についても、価格は年々高くなっている。条件も厳しくなっている。第二は、日本側の中国への期待が強まる中で、いわば“香港外し”が顕著になっていることだ。日本のライセンサーは大手ならずとも近年、直接に中国市場を狙いたがる。しかも、“直接に”とはいえ、日本の中間エージェントを通す日本企業もある。いずれにしろ、外国のライセンサーが中国マーケットを直接にやるのはトラブルが多く、香港の活用をもっと真剣に考えるべきだ」

——香港を使うメリットは？

「第一に、香港が保持する伝統的な中国との関係。加えて、CEPA にも注目して欲しい。第二に、制作費の低減。例えば、アニメの制約費は膨らみがちだが、コストダウンを目的に、外国企業が本国で“パート 1”を作り、続編は香港の会社と香港で契約し、中国で一種の共同製作を行うなどが一案だ。実際、中小企業とのビジネスに関して比較的理解がある韓国企業に対して、このようなビジネスモデルを積極的に提案している。ライセンスングは儲けが小さいビジネスだが、人件費の安い中国を活用したアニメの共同製作は比較的儲けが大きいので、我々にとっても利がある」。

(以下、参考)

多莱寶授權（国際）有限公司（bubble mon）は 1997 年の成立。99 年に広州に現地法人、02 年に上海に代表事務所を設立。同社社長の李偉生氏は 128 人（団体）の会員を擁する香港專利授權特許經營協會会長でもある。今年夏には、香港の公的機関とともに、ライセンスングに関してなお初期段階にあるマカオにおいてセミナーを行った。同氏によれば、香港のライセンス事業におけるマーチャンタイジング（商品化）は 4～6 億香港ドル（60～80 億円）の規模で、年率 5～6%のペースで成長している。また、アニメーション市場は、3 億香港ドル程度の規模だが、中期的に 10 億香港ドル程度まで膨らむと見る。

以上

業界関係者インタビュー（マンガ）

インタビュー先：「文化傳信」カルチャーコム 宮澤洋子氏 経理（国際部）

——香港での日本の漫画の人気は？

「週刊誌を含め、6～7割が日本の漫画が占める。単行本だけなら、その比率はほぼ100%だ。武侠小说や功夫（カンフー）の伝統がある香港は台湾などと異なり、ローカルの漫画が創作される素地があるが、いわばアメコミ風のオールカラービジュアルで見せるマンガが主流で、ストーリー性や笑いのセンス、ジャンルの幅広さ等は比較にならない。」

——海賊版の問題は？

「税関などとの共同摘発で、海賊版はほぼ消えた。現在の問題は、値段が安い台湾からの並行輸入である。また中国での漫画の違法サイトの存在である。日本の雑誌連載作品が日本での雑誌発売後数日でアップロードされてしまい、出版物の販売に影響が出ている。」

——日本側への要望は？

「版權契約にかなりの時間を要する場合がある。香港はトレンドの移り変わりが早いマーケットなので、出版のタイミングを逸すると販売効果が半減する。現在でも単行本で2ヵ月程度のギャップがある。実現がまず不可能なことを承知で言えば、同時発売が香港と日本の双方が最大収益を上げられるベストな状況だ」

——バイヤーとして日本のコンテンツ・セラーをどう見るか。

「香港市場や漫画に限らないが、良質のコンテンツは完全な『売り手市場』であるものの、新規バイヤーは買うのが難しいと思う。セラー側は新興マーケットでは新たな企業を見付ける努力をするが、既存契約の長い時間をかけて作られた信頼関係を重視する。」

（以下、参考）

「文化傳信」（カルチャーコム）は、1979年に「香港漫画の教父」と呼ばれる黄玉郎氏が設立。86年に香港証券取引所に上場する。その後、香港で初めてカラーページを設けるなど大衆紙の草分けで、最盛期に38万部を誇った日刊紙『天天日報』を買収しメディア事業を拡大。しかし、後に日刊紙を発行する星島集団とそのオーナー一族が買収し、現在の「文化傳信集団」に改称、その後再び買収を経てIT関連事業への多角化を図った。香港産の漫画では『百分百感覺』、『龍虎門』、また連載が2000週以上続き販売部数で香港最高記録を持つ長編『中華英雄』など著名な作品の版權を所有する。92年からは日本漫画の出版を開始。香港で初めて日本漫画を合法的に出版した会社としても知られる。代表作として『ドラえもん』、近作では『デスノート』（2004年）、『キャプテン翼 GOLDEN-23』（香港は2006年）、『プルート』（2005年。香港は2006年6月）などがある。

以上

業界関係者インタビュー（音楽）

インタビュー先：Golden Dynamic Enterprises Limited.

Lestor Mo（毛毛）氏. Regional Manager, Artists & Repertoire

——ビジネスについて。

「我々のビジネスは香港では希少だが、技術的にはかなり制約が大きい。マイクロソフトの Digital Right Management（DRM）技術を使うので、利用はウィンドウズ搭載PCに限られる。また、客の40%はアップルの iPod を持っているが、我々のサイトから直接にダウンロードできない。一旦CDに焼く必要がある。」

「現在は30万曲のダウンロードが可能だが、年末までに40万曲、最終的には50万曲まで増やす計画だ。その中心は欧米の音楽で、イタリアやフランスの音楽をはじめ、ウクライナなどマイナーな音楽も提供できるようになる。」

「基本的に1曲8香港ドル（約120円）で、携帯電話の着うたとしての利用も可能。ダウンロードの内訳は、25%が外国音楽で、75%が香港ローカル作品。利用登録情報によれば、顧客は年齢層が30～55才、最大の利用者は33才。この層が多い理由として、①非合法サイトを見付ける暇がない、②ビジネス書類をPCに格納しておりウィルスが心配で中国内の違法サイトを利用しない—などが考えられる。香港における違法サイトの利用者は、年齢23才以下の、自由に使えるカネが少ない若い世代と言われるが、我々の顧客層は、そうした見方とも整合的だ。」

——Jポップの現状は？

「ダウンロード可能な日本の音楽は約2000曲。ほとんどがサウンドトラックか、徹底した独立系レーベル。香港人がほとんど知らない曲が大部分だ。著名人は、宇多田ヒカルと中島美嘉くらいか。携帯電話の着メロは若干マシだが、有名シンガーの曲の提供がレコード会社によってほとんど拒否されている中で、宇多田ヒカルの曲が取れたのは、EMIが彼女を国際派シンガーとして売る確固とした方針を持ち権利問題がクリアできたため。中島美嘉については、映画『NANA』のサウンドトラックがあったためと推測する。提供しているオレンジレンジの曲も映画『電車男』の主題歌だ。独立系レーベルはその諸権利を大手レコード会社が管理しているが、販路拡大策として我々にも提供するのだと思う」

「Jポップはダウンロード数で5%以下。著名シンガーの曲がほとんどないことに加え、Jポップが香港ではマイナーであるのが理由だと思う。ラジオでは欧米の音楽が当たり前のように流れるが、Jポップは1、2局が時々流す程度である。」

「ただし、Jポップについて毎月200件以上の問合せあり、潜在需要は大きいと見ている。中森明菜や近藤真彦の人気の高いが、権利問題がクリアできず提供できていない。」

(以下、参考)

EOLAsia.com (按來音樂) は「按來亜洲有限公司」が運営する香港初の合法的かつ販売曲数で最大、また唯一のダウンロード可能な音楽専門サイト運営会社。05年2月21日の開設。1999年に創設された互動創意科技有限公司 (I-Content Technology Limited) の関連会社。ただし、ダウンロードはPCまでで、携帯型音楽プレーヤには転送できない。

互動創意科技有限公司の創設当時の株主は、晨興集團 (Morningside Group) (恒隆集團的創設者の陳ファミリーが支配する投資集団)、嘉禾集團 (Golden Harvest Group) (香港を代表する映画製作会社の一つ)、宏網集團 (Acer Digital Service Group) (台湾のコンピュータ企業のエーサー子会社)、および East-West Entertainment Limited (互動創意科技有限公司創設者の個人会社) だったが、現在は晨興集團 (Morningside Group) のみ。会社構造改組により、晨興集團は Golden Dynamic と互動創意科技有限公司を統合し、Golden Dynamic が EOLAsia.com (按來音樂) を傘下に置く。晨興集團 (Morningside Group) の下には Qlala (<http://www.qlala.com/index2.php>) という壁紙、着うた、ゲームなど携帯電話専用サイト運営会社もある。

以上

業界関係者インタビュー（ゲーム）

インタビュー先：亜洲時文社/香港青文出版社

黎振洋 『電撃 HOBBY』編集長

梁文豪（坤） 『ファミ通 PS2』編集長

——香港のゲーム市場は

「2 種類以上持っている消費者もいるだろうが、PSⅡは香港のゲーム人口の 90%が使っていると考えられ圧倒的なシェアを誇る。MS の xBox360 はネットでのインタラクティブ機能があり、旧世代機より人気上昇した。流通している PSⅡ用ソフトは、500 種類くらいと推測する。新作なら 1 週間で 200～300 本売れる。“ヒット作”であればこの後しばらくは 1 ヶ月で PSⅡなら 30 本、PSP なら 10 本、任天堂なら 10～20 本程度のペースで売れ続ける。」

——ソフトの市場規模は

「年に数万本というところだろうが、よく分からない。また、正規輸入品は『行貨』と言われるが、これに加え『水貨』と呼ばれる平行輸入品がある。『水貨』は市場の推定 20%程度を占める。その大部分が正規ルートに載らない不人気ソフトだが、コアなファンの間で根強い需要がある。この他に海賊版やネット上で流通する違法ソフトがある。」

——ソフトのローカライズは

「PSⅡはない。Xbox は火狗工房の『愛神餐館』の 1 つ。香港でローカライズといえば、開発費が相対的に少ない PC ゲームのことをいう。日本語ソフトでもアクション系なら言葉の問題はない。問題は言葉ではなく面白さ。アニメや漫画と同じで、コアユーザーはあえて日本語ソフトで楽しもうとする。」

——販売流通体制は

「輸入・卸業務を行う香港現地法人などを設置している。コナミ、カプコン、ソニー、バンダイなどは事務所を持ち、また任天堂は“萬信 (MANI)” が代理にしている。日系では SNK Playmore もある。」

(以下、参考)

香港や台湾等ではゲームソフトのほぼすべては日本語版である。このため操作法などを解説する中国語情報が欠かせない。雑誌、最近ではネットがその有力な媒体である。

香港にはゲーム専門の週刊誌が 4～5 誌ある。紙質を落としページ数は少ないが、「情報が早く、雑誌は安い」がセールスポイントである。これに対し、03 年夏に創刊された『ファミ通 PS2』は、日本から版權を購入したうえで発行する本格的なバイウィークリー（2 週間に 1 度発行）のゲーム誌である。印刷部数は 1 万 5000 部。

また、ほぼ同時期の 03 年 5 月に創刊された『電撃 HOBBY』もある。こちらも日本から版權を購入した上で発行し、印刷部数は 2 万部。フィギアなどガンダム関連商品を中心に紹介する。

台湾でも同じ日本の版元から同一雑誌の版權を購入のうえ出版しているが、「キャラクターの名前など台湾流、香港流があり、1 冊で済ますことはできない」そうである。

以上

6. 参考文献等

香港

- ・『香港電影制作～電影及錄影業通訊錄 2006』香港特別行政区政府影視及娛樂事務管理处電影服務統籌課
- ・『Hong Kong Filmart : Industry Manual 嘉賓通訊錄 206』香港貿易發展局
- ・Hong Kong Filmart
(<http://gbcode.tdctrade.com/gb/www.hkfilmart.com/filmart/japanese.htm>)
- ・『Hong Kong Music Fair : Fair Directory 2006』香港貿易發展局
- ・Census and Statistical Department, Hong Kong SAR Government.
- ・Television and Entertainment Licensing Authority(香港特別行政区政府影視及娛樂事務管理处)
39/F, Revenue Tower, 5 Gloucester Road, Wan Chai, Hong Kong.
Tel: +852 259 45883, Fax: +852 2507 3880
(<http://www.tela.gov.hk/>) (enquiry@tela.gov.hk)
- ・Film Service Office, Hong Kong SAR Government.
(<http://www.fso-tela.gov.hk/>)
- ・Hong Kong Productivity Council (香港生產力促進局)
HKPC Building, 78 Tat Chee Avenue, Yau Yat Chuen, Kowloon, Hong Kong
Tel: +852 2788 5678 Fax: +852 2788 5900
(<http://www.hkpc.org/>)
- ・IFPI (South East Asia) Ltd
Room 3705 Hopewell Centre, 183 Queen's Road East, Wanchai, Hong Kong.
Tel: +852 2866 6862 Fax: +852 2865 6326 Email: hongkong@ifpi.org
(<http://www.ifpihk.org/www/public/index2.php?langsel=1>)

7. 分野別バイヤーリスト

(映画、テレビ番組、マンガ、アニメ、音楽、ゲーム)

【バイヤーリスト(香港):映画】

名称		電話	ファックス	担当者(電子メール)
【映画配給:劇場】				
Buena Vista International	20/F Shell Tower Times Square,1 Matheson Street,CausewayBay,Hong Kong http://bventertainment.go.com/	22032000	22031192	Mr.Jo Yan, Vice President jo.yan@disney.com
Celestial Pictures Ltd	Shaw Administration Building,Lot220, Clear Water Bay Road,Kowloon, Hong kong www.celestialpictures.com DistributionEnquiry@CelestialPictures.com	29271162	22430099	Alan Ng,VP Acquisitions & Distribution alan.ng@celestialpictures.com
China Star Entertainment Limited	Room 503C, Miramar Tower, 132 Nathan Road,Tsim Sha Tsui,Kowloon,Hong Kong http://www.irasia.com/listco/hk/chinastar/	23131888	21919888	Anna Lai, Acquisition & Distribution Executive anna.lai@celestialpictures.com
Edko Films Limited	Rm 1212, Tower 2 Admiralty Ctr., 18 Harcourt Rd., Admiralty, Hong Kong	25293898	2525277	Ms.Porlin Yeung porlin@chinastar.com.hk Audrey Lee General Manager laudrey@edkofilm.com
Emperor Motion Picture(HK) Limited	28/F Emperor Group Ctr., 288 Hennessy Rd.,Wan Chai, Hong Kong www.emp.hk	28356688	28934309	Olivia Mak Assistant Manager Distribution Dept makolivia@edkofilm.com Catherine Chau, Asst.Distribution Manager catchau@emp.hk
Entertainment In Motiion	5455 Centinela Ave.,Los Angeles , CA 90066 http://www.skyfilms.com/	94257429	-	Elly Lai Distirbution Exceutive ellylai@emp.hk Annie Mather, Director of Acquisitions sunsea@hkstar.com
Golden Harvest Entertainment Co., Ltd	16/F The Peninsula Office Towet, 18 Middle Rd.,Tsim Sha Tsui, Hong Kong www.goldenharvest.com	23528261	23535989	Ada Foo General Manager,Marketing ada.foo@goldenharvest.com Ms Belinda TANG belinda_tang@goldenharvest.com
Golden Scene Co., Ltd	15B Astoria Building, 34 Ashley Road, Tsim Sha Tsui, Kowloon, Hong Kong http://www.goldenscene.com/home.html	22659999	23020938	info@goldenscene.com
Intercontinental Film Distributors (HK) Ltd.	Unit 1 27/F Phase 2 Wyler Ctr., 200 Tai Lin Pai Rd.,Kwai Chung,NT, Hong Kong	24816693	24816377	Michael Wong Manager Acquisition michael.wong@intercontinental.com.hk Ms Nan WONG ifdl@intercontinental.com.hk
Lark Films Distribution Ltd	Suite 601 Tower 1 The Gateway, 25 Canton Rd., Tsim Sha Tsui,Kowloon, Hong Kong	31041790	29562828	Karen Wong, Distribution & Marketing Manager wkaren@larkfilms.com.hk
Media Asia Distribution	24/F Causeway Bay Plaza 2,463-483 Lockhart Road,CausewayBay,Hong Kong	23144288	23144248	Teresa Cheng Senior Distribution & Marketing Officer teresac@larkfilms.com.hk wdis@mediaasia.com
Mei Ah Entertainment Group Ltd	28 Chun Choi Street, Tseung Kwan O Ind Est,NT,Hong Kong	27513388	27993643	Mr.Patrick Tong

名称		電話	ファックス	担当者(電子メール)
Newport Entertainment Co Ltd	www.meiah.com 19/F Southland Building, 47 Connaught Road,Central, Hong Kong	25436973	25449574	meiah@meiah.com Mr.Chan Wing Mei
Panasia Film	16/F The Peninsula Office Tower,18 Middle road,Tsim Sha Tsui,Kowloon, Hong Kong	23528222	23511683	Ms.Belinda TANG
Panorama Distribucitons Co. Ltd	8/F Mita Ctr.,552-566 Castle Peak Rd.,Kwai Chung, NT, Hong Kong www.panorama.com.hk	23669633	27217056	belinda_tang@goldenharvest.com Jacqueline Fung Fitzpatrick, Director of Acquisitions & Development jfung@panorama.com.hk
Shaw Brothers (HK) Limited	Lot 220, Clearwater Bay Rd., Sai Kung, NT, Hong Kong http://shawonline.sbmedia.sg/index.html	23355111	23580526	Jennifer Cheung, Purchasing Manager shaws@shawbrothers.com.hk
Tumer Entertainment Networks	29/F Oxford Hse Tai Koo Place,979 King's Rd.,Quarry Bay,Hong Kong -	31283711	31283952	Michele Schofield Director,Programming and Acq. michel.schofield@tumer.com
UA Cinema Circuit Ltd	Suite 612 Tower 1 The Gateway, 25 Canton Rd., Tsim Sha Tsui, Kowloon, Hong Kong -	31283641	31283952	Priscilla Lee, Manager,Acquisitions prisilla.lee@tumer.com
UIP International Pictures	(Panaasia Films Limited)(Golden Harvest) 16/F The Peninsula Office Towet, 18 Middle Rd.,Tsim Sha Tsui, Hong Kong www.uipcorp.com	27354633	23758869	Vicky Wong, Film Booking Manager
UNIVERSAL FILMS & VIDEO CO., LTD	A4 19/F Kailey Ind Ctr.,12 Fung Yip St., Chai Wan,Hong Kong -	23528222	23535989	vickyw@uacc.com.hk Teerachai Triwongwaranat
Warner Bros (FE) Inc	34/F Oxford House, Taikoo Place.979 King's Road,Quarry Bay,Hong Kong www.warnerbros.com	28890818	25572710	Lau Yuk Hing, Manager
【ビデオ・VCD・DVD配給】 CN Entertainment Ltd	-	31281237	31281210	universal3@ctimail.com Clara Law, Regional Distribution Manager clara.law@warnerbros.com
Deltamac (HK) Co.,Ltd	Unit 1002,Nanyang Plaza, 57 Hung To Road,Kwun Tong,Kowloon,Hong Kong www.deltamac.com.hk	26900838	23981744	Pat Wong, Acquisition Officer cn@cnenertainment.com.hk Ms Clera CHU sales@deltamac.com.hk
Emphasis Video Entertainment Ltd	26/F Two Chinachem Exchange Square,338 King's Road, North Point, Hong Kong www.emphasis-video.net/	25161059	25647271	Alison Chan, Senior Executive, Acq & Distribution achan@emphasis-video.net
Fortissimo Film Sales	4/F,1 Hoi Ping Road,CausewayBay, Hong Kong -	23118081	23118023	Mr.Wouter Barendrecht info@fortissimo-hk.com
Golden Harvest Home Entertainment	16/F The Peninsula Office Tower,18 Middle road,Tsim Sha Tsui,Kowloon,Hong Kong	23528222	23535989	Ms.Belinda Tang
Intercontinental Video	Unit 1, 27/F., Wyler Centre, Phase 2, 200 Tai Lin Pai Road, Kwai Chung, New Territories, Hong Kong http://www.intercontinental.com.hk/contact_us/contact_us_index.htm	24188827	24816594	belinda_tang@goldenharvest.com Mr. Robert Lee, General Manager Ms. Christina Chong, Distribution Manager Ms. Ellen Lee, Marketing Manager Mr. Patrick Wong, Sr. Sales & Merchandising Manager Contact_ivl@intercontinental.com.hk

名称		電話	ファックス	担当者(電子メール)
Warner Home Video	29/F Oxford Hse Tai Koo Place,979 King's Rd.,Quarry Bay,Hong Kong www.whv.com.hk	31281718	31281780	Pandora Mak, Director, Finance/Acquisitons pandora.mak@warnerbros.com
domo media intl cie ltd	-	82356080	-	Delbecq paul, head of acquisitions paul@domo-media.com
Golden Network Asia Ltd	Unit 2205 Futura Plaza,111-113 How Ming St.,Kwun Tong,Kowloon, Hong Kong www.goldnetasia.com/	27511886	27504862	Clarence Tang, Head of Sales & Acquisitions info@goldnetasia.com

【バイヤーリスト(香港) : テレビ番組】

本報告書の無断転載を禁ずる

名称	住所 (HPアドレス)	電話	ファックス	担当者 (電子メール)
【地上波】				
ATV (Asia Television Limited)	81 Broadcast Drive, Kowloon Tong, Kowloon, Hong Kong www.hkatv.com	29928110	23386444	Yuen Kai Leung,Ray Operation rayyuen@atv.com.hk Controller Program
		29928888	23386444	Ray Yuen Controller,Prog.Operations rayyuen@atv.com.hk Deputy
TVB (Television Broadcasts Limited)	TVB City, 77 Chun Choi St., Tseung Kwan O Ind Est., NT, Hong Kong www.tvb.com	23358074	23581325	Almaz Wong Officer almaz.wong@tvb.com.hk Senior Programme
【有料テレビ】				
Hong Kong Cable Television Ltd	Cable TV Tower, 9 Hoi Shing Road, Tsuen Wan, Hong Kong www.cabletv.com.hk	-	-	Otto Leong, Controller, Programme Distribution ottoleong@cabletv.com.hk
		21126388	-	Siu Ming Tsui, Executive Director, Programming Services siuming@cabletv.com.hk
I-CABLE ENTERTAINMENT LIMITED	Cable TV Tower, 9 Hoi Shing Road, Tsuen Wan, Hong Kong http://www.i-cablecomm.com/	21125902	21127856	Ms Cassidy Lau Acquisitions CassidyL@cabletv.com.hk Manager, Programme
PCCW	8F, Lockhart Exchange Bldg., 3 Hennessy Rd., Wanchai, Hong Kong www.nowbroadbandtv.com/	28832250	-	Chan Si Yee, AVP, Content Development-Internet Services siyee@netvigator.com
Galaxy Entertainment Co., Ltd.		98361224	-	Priscilla Chan, Business Development Manager priscillatwchan@gmail.com
TVB PAY VISION Ltd (Galaxy Satellite Broadcasting Limited)	TVB City, 77 Chun Choi St., Tseung Kwan O Ind Est., NT, Hong Kong www.tvbpayvision.com/	23999334	-	Wally Tse, Senior Commercial Manager wallytse@qsbhk.com
【衛星放送】 (Non-Domestic Television Programme Services)				
Agogo Corp HK Ltd	C1 2/F Phase 5 Hong Kong Spinners Ind Bldg.,760 Cheung Sha Wan Rd., Kowloon, Hong Kong	23698928	27243801	Brian HO, Director-Business Affairs & Development bho@agogo.com.hk
Agogo Corporation / Animation Services	C1 2/F Phase 5 Hong Kong Spinners Ind Bldg.,760 Cheung Sha Wan Rd., Kowloon, Hong Kong	23698928	27243801	Kit Ying Chris Luk, Executive Business Affairs & Development cluk@agogo.com.hk
China Star Entertainment Ltd	Rm 3409 Shun Tak Ctr West Tower, 168 Connaught Rd C.,Hong Kong	23131842	21919888	Almen Ng, Manager-Distribution & Acquisition almen@chinastar.com.hk
i-CABLE Satellite Television Limited	Cable TV Tower, 9 Hoi Shing Road, Tsuen Wan, Hong Kong www.21126888.com/	21124208	-	Fiona Lee, BD & Distribution Manager fiona_lee@cabletv.com.hk
NeoVision Co.Ltd	http://neovision.com.hk/	35688028	35686628	Catoriona Chen Distribution Manager catriona@neovision.com.hk Acquisition &

本報告書の無断転載を禁ずる

名称	住所 (HPアドレス)	電話	ファックス	担当者 (電子メール)	
PHOENIX SATELLITE TELEVISION CO. LTD.	9/F One Harbourfront, 18 Tak Fung St., Hung Hom, Kowloon, Hong Kong www.phoenixtv.com	26219888	26219898	Holly Wong, Senior Programme Officer hollyw@phoenixtv.com	
Turner Entertainment Networks	29/F Oxford Hse Tai Koo Place,979 King's Rd.,Quarry Bay,Hong Kong www.turner.com/	31283711	31281780	Michele Schofield, Director, Programming and Acquisitions michele.schofield@turner.com	
		31283641	-	Priscilla Lee, Manager - Acquisitions priscilla.lee@turner.com	
【有料映画チャンネル】					
CARTOON NETWORK ASIA TURNER ENTERTAINMENT	www.cartoonnetwork.com/help/international.html	97807300	-	Timothy Chan, Editor timothykmchan@hotmail.com	
Fortune Star Entertainment (Hong Kong) Ltd	8/F One Harbourfront, 18 Tak fung Street,HungHom,Kowloon www.startv.com	26218888	26217771	Peter Poon fortunestar@startv.com	
Star Group Ltd.	8th Floor,One Harbourfront, 18 Tak Fung Street,Hunghom,Kowloon,Hong Kong www.startv.com	26218882	26218031	Brian Lau VP,Programming vicky@startv.com Michelle Hui vicky@startv.com Ross Crowley vicky@startv.com	Associate Programming Manager SVP Programming
Golden Network Ltd	Unit 2203, Futura Plaza, 111-113 How Ming Street, Kwun Tong,Kowloon,Hong Kong	27511886	27504862	Clarence Tsang, Head of Sales and Acquisitions info@goldnetasia.com	
Multiplex Cinema	Unit 1 27/F Phase 2,Wyler Centre,200 Tai Lin Pai Road,Kwai Chung,NT,Hong Kong	24816693	24816377	Christine Tam christine@intercontinental.com.hk	
United Artists Cinema Circuit Ltd (UA Cinema Circuit Ltd)	Suite 612 Tower 1,Gateway, 25 Canton Road,Tsim Sha Tui, Kowloon	27354633	23758869	Ms.Vicky Wong vickyw@uacc.com.hk	
Walt Disney Television International (Asia Pacific)	20/F Shell Tower Times Square,1 Matheson Street,CausewayBay,Hong Kong http://disney.go.com/home/today/index.html	22032368	-	Sandy Lam Marketing sandy.lam@disney.com	

【バイヤーリスト(香港):漫画】

名称	住所(HPアドレス)	電話	ファックス	担当者(電子メール)
文化傳信有限公司	7/F, Culturecom Centre, 47 Hung To Rd., Kwun Tong, Hong Kong.	29508924	23571159	Ms Yoko Miyazawa
玉皇朝出版有限公司	(Culturecom) http://www.culturecom.com.hk/ d 11/F, Safety Godown Industrial Building, 56 Ka Yip Street, Chai Wan, Hong Kong	25797715	25089772	Ms Maygi LAM (林美芝 女史)
天下出版有限公司	(Jade Dynasty Group Limited) www.hk970.com Unit 5-8, 12/F, Westlands Centre, 20 Westlands Road, Quarry Bay, Hong Kong	25618172	25659326	Ms Ronnie Ma
正文社出版有限公司	(Jonesky Limited) www.comicsworld.com Unit A, 2/F, Cheung Lee industrial Building, 9 Cheung Lee Street, Chai Wan, Hong Kong	25158787	-	ronniema@jonesky.com.hk Ms Carmen Tam carmen@jonesky.com.hk info@rightman.net
東立出版集團有限公司	(Right Man Publishing) http://www.rightman.net/ Flat 1901, Kodak House, Phase 2, North Point, Hong Kong	23862312	23618806	tlcomics@tlcomics.com
香港青文出版社有限公司	(Tong Li Publishing) http://novel.tongli.com.tw/ Workspace B, 7/F, Tontex Industrial Bldg., 2-4 Sheung Hei St., San Po Kong, Kowloon, Hong Kong.	22676128	22677328	-
	(Ching-win Publishing) http://www.ching-win.com.tw			

【バイヤーリスト(香港):アニメ】

名称	住所 (HPアドレス)	電話	ファックス	担当者 (電子メール)
Animation International Ltd. (国際影業有限公司)	29/F,China United Centre,28 Marble Road,North Point, Hong Kong www.ail.com.hk	25751520	28342162	Mr Douglas Yick mkt@ail.com.hk
AT Licensing & Merchandising Limited 宏達亜洲貿易有限公司	Suite 2003, 20/F,9 Chong Yip Street,Kwun Tong,Kowloon, Hong Kong www.atlicensing.com	29476097	29476098	Ms Alice Tang info@atlicensing.com
Bandai Asia Co., Limited 萬代亜洲有限公司	Unit 3018,Tower 1, Admiralty Centre,18 Harcourt Road,Central, Hong Kong www.bandai-asia.com	25204300	25271905	Ms Rachel Ko rachel@bandai.com.hk
Bubble Mon Licensing (International) Company Limited 多莱宝授權(國際)有限公司	Room 15, 13/F, Wah Shing Centre,11-13 Shing Yip Street, Kwun Tong, Kowloon, Hong Kong www.bubblemon.com	31070717	31070718	Mr Wilson LEE (李伝生) General Manager info@bubblemon.com
Imagi International Holdings Limited 意馬國際控股有限公司	Units 1909-12, 19/F, Eight Commercial Tower, 8 Sun Yip Street, Chai Wan, Hong Kong www.imagi.com.hk	31030108	31020112	Mr Edward LEE (李伝梁) Vice President - Corporate Development & Deputy Chief Operating Officer info@imagi.com.hk
jjidou Limited 自動有限公司(携帯用コンテンツ開発)	Suite 1201, 12/F, The Centrium,60 Wyndham Street, Central, Hong Kong www.jidousports.com	25263016	25267126	Mr Henry YEUNG (楊明康) Business Executive info@jidousports.com Ms Amy Tsang amysang@jjidou.com.hk
Medialink Entertainment Limited 鈴邦影視國際有限公司	Suite 1001B, 10/F., Tower 1, South Seas Centre, 75 Mody Road, Tsim Sha Tsui East, Kowloon, Hong Kong. www.medialink.com.hk/main.html	25034980	25089767	Linda Lee Senior Manager lindalee@medialink.com.hk Lovinia Chiu Managing Director luluml@medialink.com.hk Ronan Wong Marketing Executive ronan@medialink.com.hk
Muse Communication (H.K.) Ltd 木棉花國際香港有限公司	Rm1715,17/F, Hang Lung Centre, 2-20 Paterson St., Causeway Bay, Hong Kong. http://www.e-muse.com.tw	34263588	34262994	Ms Amanda Ip amandamusehk@biznetvigator.com
Toei Animation Enterprises Limited 東映動画企業有限公司	29/F,China United Centre,28 Marble Road,North Point, Hong Kong www.toei-anim.co.jp	25641191	25643567	Ms Jessica Tai jessicat@glink.net.hk
Top-Insight International (HK) Co., Ltd. 群英社國際(香港)股份有限公司	23F. 83 Wan Chai Rd., Wan Chai, Hong Kong www.my-cartoon.com.tw	27820202	27820881	Ms Rita Kao Director, Programming and Acquisition rita@top-a.com.tw

【バイヤーリスト(香港):音楽】

本報告書の無断転載を禁ずる

名称	住所(HPアドレス)	電話	ファックス	担当者(電子メール)
Avex Asia Ltd	3214-6, Shell Tower, Times Square,Causeway Bay, Hong Kong http://www.avexasia.com/cn/index.jsp	25042181	25042007	info@avexasia.com
BAILEY RECORD CO. LTD	Rm.1015, Tower A Hunghom Commerical Center,39 Ma Tau Wai Road, Hunghom, Kowloon, Hong Kong	27158617	27158759	alec@baileyrecord.com
Crown Record Co Ltd	7/F 34A Kennedy Road,Hong Kong	25237845	28684162	-
EMI Music Hong Kong Ltd	Suites 2705-9 Tower 6,The Gateway, 9 Canton Rd.,TST,Kowloon,Hong Kong http://www.emimusic.com.hk	25065611	25064373	wendy.ng@emimusic.com
EMPEROR ENTERTAINMENT GROUP LIMITED	28/F., Emperor Group Center, 288 Hennessy Road, Wanchai, Hong Kong http://www.eegmusic.com	28356518	23313575	paulinewong@emperor.com.hk
EOLAsia	Unit 1801-02, 18/F., Millennium City 2, 378 KwunTong Road, Kowloon, Hong Kong http://www.eolasia.com/	27007228	27007111	alan_choy@i-content.com.hk
HUMMINGBIRD MUSIC LIMITED	Rm. 3403, China Merchant Tower, Shun Tak Center, 168-200 Connaught Road, Hong Kong http://www.hummingbird.hk	28249089	28244836	angus@hummingbird.hk
imusic	Cable TV Tower, 9 Hoi Shing Road, Tsuen Wan, Hong Kong http://imusic.i-cable.com/	21126868	21127878	editor@i-cable.com
JVC Musical Ind HK Ltd	Rm 609 Ocean Centre,5 Canton Road, TST,Kowloon,Hong Kong	23761789	23753101	-
NWTmusic.com	17/F, Chevalier Commercial Centre, 8 Wang Hoi Road, Kowloon Bay, Hong Kong. http://www.nwtmusic.com/nwtmusic/default.aspx	21382138	21332133	support@nwtmusic.com
o8 Media	VideOnline Communications Ltd. 香港九龍塘達之路72號 科技中心306A室 http://www.o8media.com/portal/index.php	31880060	-	http://www.o8media.com/portal/index.php/Info/contactus.html
Sony BMG Music Entertainment (HK) Ltd	Suite 2801 CITIC Tower1,Tim Mei Ave.,Admiralty http://www.sonybmg.com.hk	28631766	27823457	edith.mok@sonybmg.com
3 HONG KONG	17/F., Hutchison Telecom Tower, 99 Cheung Fai Road,Tsing Yi, NT, HK www.three.com.hk	21283483	21231267	winnieh@hgc.com.hk
Universal Music Group Hong Kong	15/F., One Peking Road,Tsimshatsui, Kowloon,Hong Kong http://www.umg.com.hk	23015888	23120353	Kevin Wong kevin.wong@umusic.com
VIDEONLINE COMMUNICATIONS LTD	Rm. 306A, Innocenter,72 Tat Chee Road, Kowloon Tong,Kowloon, Hong Kong www.videonline.com	23548138	27765235	slee@videonline.com
Warner Music HK Ltd	Suites 1501-6, 15/F,CMG Asia Tower,The Gateway, TST,Hong Kong http://www.warnermusic.com.hk	27322537	27243256	bonnie.leung@warnermusic.com

【バイヤーリスト(香港):ゲーム】

名称	住所(HPアドレス)	電話	ファックス	担当者(電子メール)
Alta Multimedia Ltd	Suite 2305 Nanyang Plaza,57 Hung To Road,Kwun Tong, Hong Kong www.altamm.com.hk/home.php	27638200	27931880	altainfo@altamm.com.hk
Bandai Asia Co., Limited (萬代亞洲有限公司)	Unit 3018,Tower 1, Admiralty Centre,18 Harcourt Road,Central, Hong Kong www.bandai-asia.com	25204300	25271905	Ms Rachel Ko rachel@bandai.com.hk
Capcom Asia Company Limited (嘉富康亞洲有限公司)	Unit 1510, North Tower, Concordia Plaza,1 Science Museum Road, Tsim Sha Tsui East, Kowloon, Hong Kong www.capcomasia.com.hk	23661001	23661985	Mr Alex NG (吳家伝) Manager alex@capcomasia.com.hk
Firedog Computer Entertainment Limited (火狗電腦娛樂有限公司)	Room 2201, Westlands Centre,20 Westlands Road, Quarry Bay, Hong Kong www.firedogstudio.com	25788978	25787978	Mr PANG Tze Kit, Gabriel (彭子杰) Managing Director webmaster@firedogstudio.com info@gamecyber.com.hk < info@gamecyber.com.hk >
GameCyber Technology Limited (天宇科技股份有限公司)	www.gamecyber.com.hk/news.html			
Gamemania Digital Entertainmet Co.,Ltd (香港遊戲橘子數位科技股份有限公司)	香港灣仔駱克道333號中國網絡中心50樓 www.gamania.com.hk/hk/service.asp	21698777	21698799	hk_cs@gamania.com
Gameone Online Entertainment Group Limited (智傲網絡遊戲集團)	Unit 1202, 12/F, Henan Building,90 Jaffe Road, Wan Chai, Hong Kong www.gameone.com/	28649282	-	Mr SZE Yan Ngai, Managing Director contact@gameone.com
Green Tomato Limited (綠蕃茄有限公司)	Room 705, 7/F., 625 King's Road, Quarry Bay, Hong Kong www.gtomato.com	28660084	28516601	Ms Lillian LUI Communication Manager info@gtomato.com info@konami.com.hk
Konami Didital Entertainment Ltd. (科樂美數碼娛樂有限公司)	Unit 1506, Grand Millennium Plaza, No.181 Queen's Road Central, Hong Kong www.konami-digital-entertainment.hk/	29562300	-	
Mani LTD (萬利玩具有限公司)	21/F, 381 Sha Tsui Road, Tsuen Wan, Hong Kong www.nintendo.com/corp/distributors.jsp	24164499	-	-
Microsoft Hong Kong Limited (微軟香港有限公司)	13/F, Cyberport 2,100 Cyberport Road,Hong Kong http://www.xbox.com/zh-HK/	23889600	29671679	http://support.xbox.com/xboxcontactus.aspx?locale=zh-hk
SNKPlaymore HK Co.,Ltd (新大地香港有限公司)	Rm902, Win Century Centre, No.2A, Mong Kok Rd., Kowloon, Hong Kong www.snkplaymore.com.hk/index-e.html	23772356	237723700	csserv@snkplaymore.com.hk
Sony Computer Entertainment Hong Kong Limited	Suite 1312, Ocean Centre, Harbour City, Kowloon, Hong Kong http://www.sony.com.hk/sceh/			
U1 Technology Company Limited (越一科技有限公司)	Units A & B, 21st Floor, World Trust Tower, 50 Stanley Street, Central, Hong Kong www.u1technology.com/	26113846	24153440	朱仲豪 (總裁) info@u1technology.com